

平成30年度・平成31（令和元）年度
広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

令和3(2021)年3月

広島県教育委員会

例 言

1 本書は、広島県教育委員会が、平成30年度及び平成31（令和元）年度に国庫補助を受けて実施した県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）事業に係る調査成果の報告書である。

2 本事業は、道路建設・住宅建設・農業基盤整備等、今後急速に開発が進展すると予想される地域及び既に開発計画が立案されている地域について、遺跡の分布調査（現地踏査及び試掘・確認調査）を行い、保存対策に資する目的で実施したものである。

具体的には、①大規模開発事業・広域開発事業・重要遺跡の取扱いなど、市町教育委員会（以下「市町教委」という。）が単独で対応することが困難な業務への対応、②専門職員未配置の市町教委に対する指導・助言・援助の観点から、各開発事業者等あるいは市町教委からの協議に基づいて県内各地の開発計画地内の現地踏査や試掘・確認調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無、範囲、内容等の確認を行うとともに、保存方法に関する協議を行った。

3 第7～9図及び第12図の基図は、東広島市から都市計画図の提供を受け、その他の試掘坑配置図の基図は、各開発事業者から提供された地形図・工事平面図を使用した。

なお、工事平面図については、原則として試掘当時のものを使用しているため、図中の開発事業範囲や工事設計等は、その後変更されている場合がある。

4 本事業に係る現地調査から報告書作成に至る業務は、広島県教育委員会事務局管理部文化財課が行った。担当者は次のとおりである。

現地調査・所見作成（平成30年度）沖 憲明（埋蔵文化財係長）、平川孝志（文化財保護主事）、中山愉希江（指導主事）、吉田瑠香也（主任）

現地踏査・所見作成（令和元年度）沖 憲明、平川孝志、中山愉希江、和田 祐（主事）

附編作成（平成30～令和元年度）沖 憲明

資料整理・報告書編集（令和2年度）沖 憲明、中山愉希江、村田 晋（主任）、和田 祐

5 調査の実施に当たっては、各開発事業者、地権者及び関係市町文化財保護担当部局等の協力を得た。

6 本報告書作成に係る資料類については、図面・写真類は広島県教育委員会事務局管理部文化財課（広島市中区基町9番42号）、出土遺物は広島県立埋蔵文化財センター（広島市西区観音新町四丁目8番49号）で保管している。

目 次

第1章 事業の概要	1
第2章 試掘・確認調査の成果	
1 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）に係る試掘調査	
(1) 元町地区	6
(2) 小方地区	11
2 農業競争力強化基盤整備事業に係る試掘調査	
(1) 中筋工区	14
(2) 北工区	32
3 主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）に係る試掘調査	54
4 中条川災害関連緊急急砂防工事に係る試掘調査	57
5 福山西環状線道路改築事業に係る試掘調査	59
附編 冠遺跡群（廿日市市吉和所在）採集の石器について	67
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）	7
第2図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（元町地区） 試掘坑位置図（1：1,000）	8
第3図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（元町地区）土層断面図（1：40）	8
第4図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（小方地区） 試掘坑位置図（1：1,000）	11
第5図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（小方地区）土層断面図（1：40）	12
第6図 農業競争力強化基盤整備事業に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）	14
第7図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試掘坑位置図1（1：3,000）	15
第8図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試掘坑位置図2（1：3,000）	16
第9図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試掘坑位置図3（1：3,000）	17
第10図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）土層断面図1（1：40）	21

第11図	農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）土層断面図2（1：40）	22
第12図	農業競争力強化基盤整備事業計画地（北工区）試掘坑位置図	32
第13図	農業競争力強化基盤整備事業計画地（北工区）土層断面図1（1：40）	40
第14図	農業競争力強化基盤整備事業計画地（北工区）土層断面図2（1：40）	41
第15図	主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）に係る試掘調査地点位置図 （1:25,000）	54
第16図	主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）計画地 試掘坑位置図（1：1,000）	55
第17図	主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）計画地 土層断面図（1：40）	56
第18図	中条川災害関連緊急砂防工事に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）	57
第19図	中条川災害関連緊急砂防工事計画地 土層断面図（1：40）	58
第20図	福山西環状線道路改築事業に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）	59
第21図	福山西環状線道路改築事業計画地 試掘坑位置図（1：1,000）	60
第22図	福山西環状線道路改築事業計画地 土層断面図（1：40）	62
第23図	冠遺跡群位置図（1:25,000）	66
第24図	遺物採集地位置図（1:5,000）	67
第25図	冠遺跡群採集遺物実測図1（2:3）	68
第26図	冠遺跡群採集遺物実測図2（2:3）	69

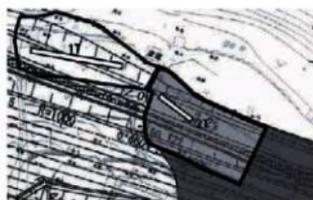
表 目 次

表1	平成30年度に実施した現地踏査等の概要	1
表2	平成30年度に実施した試掘調査等の概要	2
表3	平成31（令和元）年度に実施した現地踏査等の概要	3
表4	平成31（令和元）年度に実施した試掘調査等の概要	5
表5	一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（元町地区）試掘坑所見	8
表6	一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（小方地区）試掘坑所見	12
表7	農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試掘坑所見	18
表8	農業競争力強化基盤整備事業計画地（北工区）試掘坑所見	33
表9	主要地方道大竹湯来線道路改良事業計画地（玖波工区）試掘坑所見	55
表10	中条川災害関連緊急砂防工事計画地試掘坑所見	58
表11	福山西環状線道路改築事業計画地試掘坑所見	61
表12	遺物観察表	68

図版目次

図版 1	a 1 T (南西から)	b 2 T (北西から)	c 3 T (南から)	9
図版 2	a 4 T (南西から)	b 5 T (南西から)	c 5 T (南東から)	10
図版 3	a 試掘坑全景	b 土層	c 土層部分 (拡大)	13
図版 4	a 2 T (西から)	b 2 T 南端土層 (東から)	c 2 T 北端土層 (東から)	21
図版 5	a 4 T (西から)	b 4 T 西端土層		24
図版 6	a 5-2 T (北から)	b 5-2 T 北端 (西から)	c 6-1 T (北東から)	25
図版 7	a 6-1 T 北端土層 (南東から)	b 6-2 T (南から)	c 6-2 T 南端 (南から)	26
図版 8	a 7 T (北から)	b 7 T 北端土層 (西から)	c 9 T (北から)	27
図版 9	a 9 T 北東端土層 (北西から)	b 11-1 T (北東から)	c 11-1 T 東端土層 (北から)	28
図版 10	a 11-2 T (北東から)	b 11-2 T 東端土層 (北西から)	c 11-3 T (北東から)	29
図版 11	a 11-3 T 土層	b 12-1 T 土層 (北から)	c 12-2 T (北東から)	30
図版 12	a 12-2 T 土層 (北から)	b 12-3 T (北東から)	c 12-3 T 土層 (北から)	31
図版 13	a 3 T 土層	b 5 T 土層	c 8 T 土層	42
図版 14	a 9 T 土層	b 11 T 土層	c 13 T 土層	43
図版 15	a 14 T	b 16 T	c 19 T	44
図版 16	a 20 T 土層	b 22 T	c 23 T	45
図版 17	a 24 T 土層	b 25 T 土層	c 27 T	46
図版 18	a 28 T	b 29 T 土層	c 30 T	47
図版 19	a 31 T 土層	b 32 T 土層	c 33 T 土層	48
図版 20	a 34 T 土層	b 35 T 土層	c 36 T 土層	49
図版 21	a 37 T 土層	b 38 T 土層	c 39 T 土層	50
図版 22	a 40 T	b 42 T 土層	c 46 T 土層	51
図版 23	a 50 T 土層	b 51 T	c 55 T 土層	52
図版 24	a 56 T 土層	b 57 T 土層		53
図版 25	a 試掘坑全景 (北から)	b 土層		56
図版 26	a 試掘坑全景 (西から)	b 土層		58
図版 27	a 1 T (東から)	b 1 T 西端土層	c 2 T (東から)	63
図版 28	a 2 T 東端土層	b 3 T (東から)	c 3 T 西端土層	64
図版 29	a 4 T (北から)	b 4 T 北端土層		65

試掘坑位置図凡例



- 試掘坑
- 試掘調査により確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲
- 既周知の埋蔵文化財包蔵地
- 試掘調査の結果埋蔵文化財包蔵地ではないと確認した範囲

第1章 事業の概要

1 平成30年度に実施した分布調査の概要について

平成30年度に実施した、道路建設等の各種開発事業に先立つ現地踏査や現地協議等は、表1に掲げた41件である。

また、平成30年度に実施した試掘・確認調査は、表2に掲げた18地点、合計31,668㎡である（市町教育委員会支援分を含む）。

これらの分布調査及び試掘・確認調査の結果、埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。試掘調査の内容等の詳細については、次章に記載する。

表1 平成30年度に実施した現地踏査等の概要

No.	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
1	坂町	ダム（砂防ダム）	広島県	4/4	平川孝志 吉田馨香也	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
2	広島市	道路	国土交通省	4/5	神 憲明 吉田馨香也	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
3	廿日市市	その他建物	民間企業	4/6	平川孝志 中山諭希江	開発事業対応（試掘調査）を支援
4	熊野町	宅地造成	民間企業	4/16	平川孝志 吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
5	福山市	港湾	広島県	4/26	平川孝志	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
6	安芸高田市 三次市	重要遺跡発掘調査	安芸高田市 三次市	5/10	平川孝志 吉田馨香也	重要遺跡取扱い協議
7	熊野町	宅地造成	民間企業	6/7～ 6/8	平川孝志 吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（試掘調査）を支援
8	安芸太田町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	6/21	神 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
9	福山市	港湾	広島県	6/25	神 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
10	大竹市	道路	国土交通省	6/27	平川孝志 吉田馨香也	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
11	江田島市	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	6/29	神 憲明 吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
12	北広島町	自然保護	—	7/3	神 憲明	災害対応に関する現地協議
13	広島市	道路	国土交通省	7/25	神 憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
14	神石高岡町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	7/30	神 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
15	神石高岡町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	8/23	平川孝志 吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応を支援
16	熊野町	宅地造成	民間企業	8/31	平川孝志	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
17	竹原市	自然保護	—	9/18～ 9/19	神 憲明	災害復旧に係る調査を支援
18	福山市	港湾	広島県	10/2	神 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
19	神石高岡町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	10/2	吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援

20	神石高野町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	10/10～10/11	平川孝志 吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
21	竹原市	ダム（砂防ダム）	広島県	10/30	吉田馨香也	緊急（災害対策）土木工事に係る現地協議
22	福山市	港湾	広島県	10/30	神 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
23	呉市	その他	民間企業	11/13	吉田馨香也	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
24	呉市	その他	民間企業	11/15	吉田馨香也	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
25	府中市 福山市	史跡備後国府跡発掘調査 港湾	府中市 広島県	11/17～ 11/18	神 憲明	重要遺跡取扱い協議
26	山県郡安芸太田町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	11/21	吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
27	福山市	港湾	広島県	11/22	神 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
28	福山市	港湾	広島県	11/25～ 11/26	神 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
29	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	11/29	平川孝志 吉田馨香也	大規模開発事業計画区域内の埋蔵文化財取扱い協議
30	大竹市	道路	国土交通省	11/30	平川孝志 吉田馨香也	大規模開発事業計画区域内の埋蔵文化財取扱い協議
31	福山市	港湾	広島県	11/30	神 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
32	海田町	ダム（砂防ダム）	広島県	12/7	神 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
33	福山市	道路	広島県	12/21	平川孝志 吉田馨香也	大規模開発事業計画区域内の埋蔵文化財取扱い協議
34	江田島市	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	1/15	吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
35	福山市	道路 県史跡松本古墳発掘調査	国土交通省 福山市	1/29	神 憲明	大規模開発事業計画区域内の埋蔵文化財取扱い協議 重要遺跡取扱い協議
36	大竹市	ガス・電気・水道等（電気） 道路	民間企業 広島県	2/15	神 憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援 大規模開発事業計画区域内の埋蔵文化財取扱い協議
37	大竹市	道路	広島県	2/20	吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
38	大竹市	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	3/1	平川孝志 吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
39	三次市	その他開発（災害対策）	広島県	3/1	神 憲明 中山繪希江	災害対策事業計画区域内現地踏査
40	神石高野町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	3/6	吉田馨香也	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
41	福山市	道路	広島県	3/7	吉田馨香也	大規模開発事業計画区域内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）

表2 平成30年度に実施した試掘調査等の概要

No.	用務地	調査原因	原因者	調査対象面積	調査期間	担当者名	用務内容
1	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	15,600㎡	12/10～12/18	吉田馨香也 平川孝志 神 憲明	6地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認出来なかった。（東広島市支援）
2	竹原市	ダム（砂防ダム）	広島県	50㎡	2/13	吉田馨香也	1地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。
3	大竹市	道路	広島県	208㎡	3/14	吉田馨香也	1地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。
4	大竹市	道路	国土交通省	3,000㎡	3/18、3/20	平川孝志	6地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

5	福山市	道路	広島県	12,810㎡	3/18～ 3/22	吉田瑞香也	4地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。(福山市支援)
	合計	5事業		31,688㎡			18地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

2 平成31(令和元)年度に実施した分布調査の概要について

平成31(令和元)年度に実施した、道路建設等の各種開発事業に先立つ現地踏査や現地協議等は、表3に掲げた44件である。

また、同年度に実施した試掘・確認調査は、表4に掲げた2地点、合計7,801㎡である(市町教育委員会支援分を含む)。

これらの分布調査及び試掘調査の結果、埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。試掘調査の内容等の詳細については、次章に記載する。

表3 平成31(令和元)年度に実施した現地踏査等の概要

No.	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	業務内容
1	熊野町 福山市	その他開発(駐車場造成) 道路	民間企業 国土交通省	4/16	沖 憲明 和田 祐	専門職員未配置市町における開発事業対応(現地踏査)を支援 発掘調査事前現地協議等
2	呉市 江田島市	その他建物(気象レーダー局舎) 個人住宅	気象庁 個人	5/15	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議 専門職員未配置市町における開発事業対応 (現地踏査)を支援
3	庄原市	道路	国土交通省	5/28～ 5/29	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議
4	三次市	史跡寺町跡寺跡発掘 調査	三次市	6/7	中山倫希江	重要遺跡採取い協議
5	大竹市	道路	国土交通省	6/11	沖 憲明 和田 祐	専門職員未配置市町における開発事業対応 (現地踏査)を支援
6	呉市	その他建物(気象レーダー局舎)	大阪気象台	6/17	沖 憲明 和田 祐	開発事業対応(試掘調査)を支援
7	安芸高田市	遊跡整備	安芸高田市	6/18～ 6/19	中山倫希江	重要遺跡採取い協議
8	東広島市	ダム(砂防ダム)	広島県	6/19	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議
9	大竹市	道路	国土交通省	7/2	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議
10	東広島市	道路	国土交通省	7/16	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議
11	東広島市	ダム(砂防ダム)	広島県	7/22	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議
12	三次市	その他開発(災害対策)	広島県	8/2	沖 憲明 中山倫希江	災害対策事業内での埋蔵文化財採取い協議 (現地踏査)
13	三次市 庄原市	上山手裏寺跡、佐田谷・佐田神地遺跡 採取い協議	—	8/7	中山倫希江	重要遺跡採取い協議
14	神石高町	その他開発(登山道整備等)	民間団体	8/19	平川孝志	専門職員未配置市町における開発事業対応 (現地踏査)を支援
15	熊野町 海田町	店舗 ダム(砂防ダム)	民間企業 広島県	8/29	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議(現地協議) 大規模事業計画内での埋蔵文化財採取い協議
16	福山市	道路	国土交通省	9/3	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画内での埋蔵文化財採取 い協議(現地協議)

17	三次市	その他開発（災害対策）	広島県	9/4	中山繪希江	災害対策事業地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地踏査）
18	府中町	下関田遺跡発掘調査	府中町	9/4	沖 憲明	重要遺跡取扱い協議
19	庄原市	道路	国土交通省	9/11	和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
20	大竹市	道路	国土交通省	9/26	和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（事前調査前現地協議）
21	大竹市	道路	国土交通省	10/2	和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（事前調査前現地協議）
22	熊野町	店舗	民間企業	10/7	沖 憲明 和田 祐	専門調査員未配置市町における開発事業対応（事前調査前現地協議）を支援
23	広島市	道路	国土交通省	10/15	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
24	大竹市	道路	国土交通省	10/24	和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
25	福山市	港湾	広島県	10/27 (日)	沖 憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
26	福山市	港湾	広島県	11/9	平川孝志	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
27	江田島市	個人住宅	個人	11/12	和田 祐	専門調査員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
28	熊野町	店舗	民間企業	11/14～ 11/15	沖 憲明 和田 祐	開発事業対応（事前調査）を支援
29	三次市	道路	国土交通省	11/22	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
30	広島市	道路	国土交通省	11/26	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
31	福山市	港湾	広島県	12/4	平川孝志	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
32	東広島市	道路	国土交通省	12/17	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
33	三次市	自然保護	広島県	12/18	中山繪希江	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
34	大竹市	道路	国土交通省	12/19	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
35	安芸太田町	土砂採取	民間企業	1/16	和田 祐	専門調査員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
36	大竹市	道路	国土交通省	1/29	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
37	東広島市 福山市	道路 道路	国土交通省 広島県	1/30	沖 憲明 和田 祐	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
38	海田町	その他建物（公共施設）	海田町	2/4	沖 憲明	専門調査員未配置市町における開発事業対応（工事立会）を支援
39	大竹市	道路	国土交通省	2/5	沖 憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議
40	福山市	県史跡松本古墳発掘調査	福山市	3/6	中山繪希江	重要遺跡の取扱い協議
41	神石高原町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	3/9	和田 祐	専門調査員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
42	神石高原町	ガス・電気・水道等（電気）	民間企業	3/16	和田 祐	専門調査員未配置市町における開発事業対応（工事立会）を支援
43	福山市	港湾	広島県	3/25	沖 憲明	開発事業に係る埋蔵文化財取扱い協議
44	府中町	下関田遺跡発掘調査	府中町	3/26	沖 憲明 和田 祐	重要遺跡取扱い協議

表4 平成31（令和元）年度に実施した試掘調査等の概要

No.	用務地	調査原因	原因者	調査対象面積	調査期間	担当者名	用務内容
1	大竹市	道路	国土交通省	111㎡	12/24	沖 憲明 和田 祐	1地点の試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。埋蔵文化財包蔵地から外し、とよいと判断した。
2	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	7,690㎡	2/12～ 2/14、 2/19～ 2/21	沖 憲明 和田 祐	1地点の試掘調査を実施したが、埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。（東広島市支援）
合計		2事業		7,801㎡			2地点の試掘調査を実施。埋蔵文化財包蔵地2箇所を確認

第2章 試掘・確認調査の成果

1 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）に係る試掘調査

(1) 元町地区

所在地：大竹市大竹町

調査目的：一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：国土交通省中国地方整備局広島国道事務所

調査年月日：平成31年3月18日，3月20日

調査対象面積：3,000㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

調査対象地は、小瀬川に面した東西方向の尾根と、尾根の南側斜面である。

尾根上は、最も西側の平坦面以外は緩やかに東から西に向かって下っており、大規模な地形改変は受けていないと推測された。南側斜面は、石垣で区画した幅4～7mの平坦面が段状に連なっており、やや急な斜面を造成したものと考えられる。現地踏査の結果、比較的傾斜の緩やかな斜面であることから集落遺跡等の存在が想定されたため、試掘調査が必要と判断したものである。

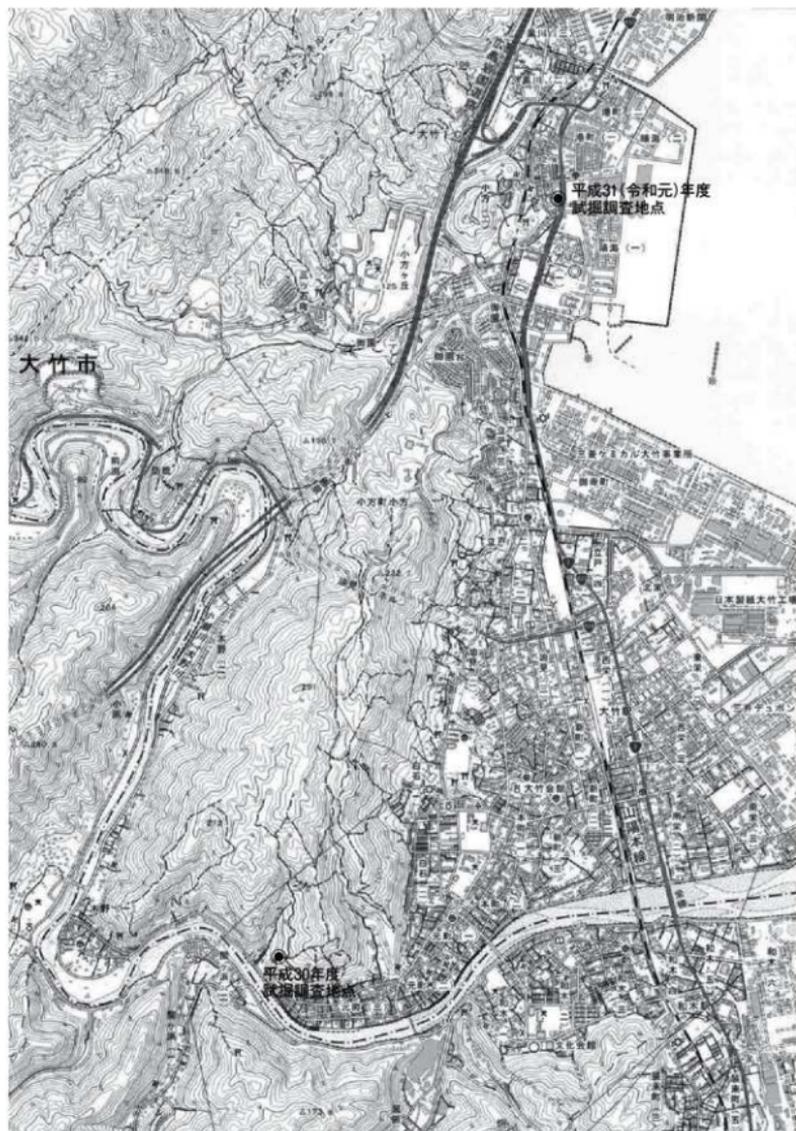
試掘坑は、尾根上に3か所（第2図1T～3T）、南側の段々畑部分に3か所（同4T～6T）設定し、人力により発掘を行った。

いずれの試掘坑においても、暗褐色の表土（第Ⅰ層）の直下で暗橙褐色～褐色土の基盤（第Ⅱ層）が確認できた。第Ⅱ層には段々畑を区画する石垣や、付近で露頭している岩と同質の黒色の礫が多数含まれていた。

6T北辺近くの第Ⅱ層上面で、15～25cm大の石の集中を確認した。東西方向に一列に並ぶような状況で検出したが、石材の隙間の土質は第Ⅱ層の褐色土であり、掘り方も確認できないこと等から、基盤に含まれる岩脈と判断した。その他にも、人為的な遺構は認められなかった。

遺物は、2T第Ⅰ層から器種・時期不明の土器片が1点出土したほか、4T第Ⅰ層及び第Ⅱ層上面から5点、5T第Ⅰ層から1点の、近世末～近代の陶磁器片が出土したが、意味ある出土状況を示しておらず、いずれも文化財としては取り扱わなかった。

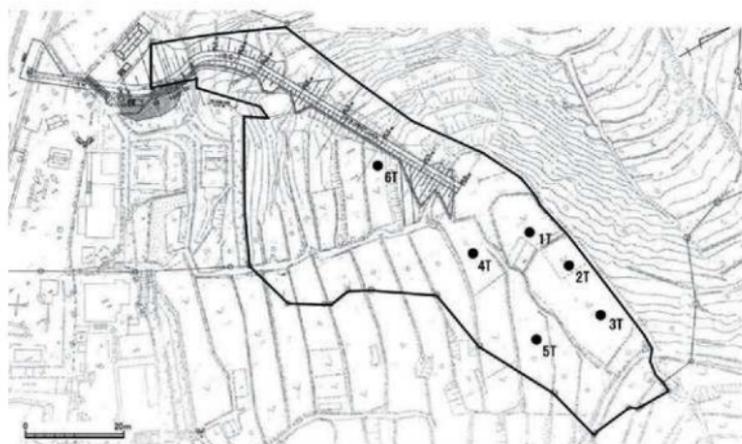
以上のように、各試掘坑において、埋蔵文化財として保護の対象とすべき遺構や遺物は確認できなかった。試掘対象地内で最も原地形が良好に残っている尾根及び斜面上部に埋蔵文化財の存在を窺わせるものは確認できなかったことから、より立地条件が悪い斜面下方に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと推測され、要試掘範囲全体に埋蔵文化財は存在しないと判断した。



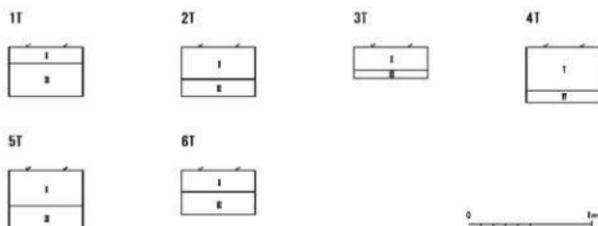
第1図 一般国道2号改築工事(岩屋大竹道路)に係る試掘調査地点位置図
 (国土地理院1:25,000地形図「大竹」図幅を使用。)

表5 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（元町地区） 試掘坑所見

トレンチ No.	規模（長さ×幅×最大深 さ、単位m）	調査所見
1 T	2.1×0.9×0.4	〈遺構・遺物なし。〉 I層 暗褐色土（現地表面～現地表下15cm） II層 淡黄褐色土（現地表下15～40cmまで確認）
2 T	3.7×1.0×0.3	I層 暗褐色土（現地表面～現地表下25cm） 遺構なし。器種・時期不明の土器片を包含。 II層 暗橙褐色土（現地表下25～30cmまで確認） 遺物・遺構なし。
3 T	3.7×1.1×0.2	〈遺構・遺物なし。〉 I層 暗褐色土（現地表面～現地表下20cm） II層 暗橙褐色土（現地表下20cm以下）
4 T	2.2×0.8×0.45	I層 暗褐色土（現地表面～現地表下35cm） 遺構なし。陶磁器片を包含。 II層 暗橙褐色土（現地表下35～45cmまで確認） 遺構なし。上面に陶磁器片を包含。
5 T	2.3×0.9×0.5	I層 暗褐色土（現地表面～現地表下30cm） 遺構なし。磁器片を包含。 II層 暗橙褐色土（現地表下30～60cmまで確認） 遺構・遺物なし。
6 T	1.9×1.0×0.3	〈遺構・遺物なし。〉 I層 暗褐色土（現地表面～現地表下20cm） II層 褐色土（現地表下20～30cmまで確認）



第2図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（元町地区） 試掘坑位置図（1：1,000）



第3図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（元町地区） 土層断面図（1：40）



a 1T (南西から)



b 2T (北西から)



c 3T (南から)



a 4 T (南西から)



b 5 T (南西から)



c 5 T (南東から)

(2) 小方地区

所在地：大竹市小方町

調査年月日：令和元年12月24日

調査対象面積：111 m²

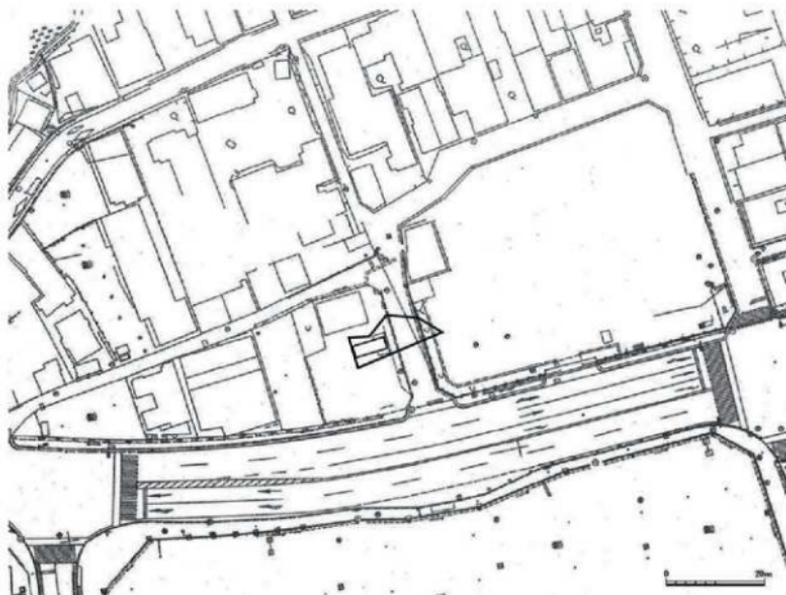
調査結果：遺構・遺物とも認められなかった。調査対象地は埋蔵文化財包蔵地として周知していた場所であるが、除外して差し支えないと判断した。

調査概要：

先に実施した現地踏査及び絵図等の資料との突合結果により、近世の港湾施設（波止）の存在が予想された範囲について、遺構の有無や正確な位置・現状等を確認するため、試掘調査を実施した。

基本層序は、Ⅰ層：暗褐色のシルト（表土）、Ⅱ層：褐色の粗砂（真砂土）、Ⅲ層：シルトや粘土の薄層を挟む淡い褐色の砂、Ⅳ層：粘土（黒褐色）と砂（灰色）の互層、Ⅴ層：砂の層（灰色）の順である。

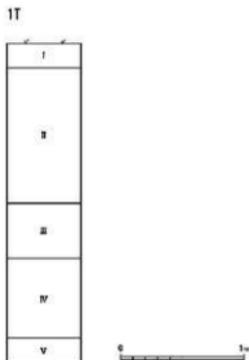
試掘の結果、遺物・遺構は確認できなかった。土層の堆積状況から、試掘した場所は水深のごく浅い海岸部で、絵図に示されている波止は、試掘対象地の外（おそらく海側）にあると判断されることから、埋蔵文化財包蔵地の範囲から除外して差し支えないと判断した。



第4図 一般国道2号改築工事（若里大竹道路）計画地（小方地区） 試掘坑位置図（1：1,000）

表6 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（小方地区）試験坑所見

規模（長さ×幅×最大深さ，単位m）	調査所見
6.6×2.4×2.6	<p><遺構・遺物なし></p> <p>I層 暗褐色シルト（現地表面～現地表面下20cm）</p> <p>II層 褐色粗砂質土（現地表面下20～130cm）真砂土。均質で人為的に埋めた可能性あり。</p> <p>III層 淡褐色砂質土（現地表面下130～175cm）シルトや粘土の薄層を挟む。上下の層にくらべ土壌化が進んでおり、植物の破片がところどころ混ざっていることから、一定年数地表面だった可能性があり。</p> <p>IV層 粘土と砂の互層（現地表面下175～240cm）植物の破片が混ざる。層理面が波打っており、浅い海底等で形成される波成リップル（ウェーブリップル）と同様の特徴を示す。</p> <p>V層 灰色砂質土（現地表面下240～260cmまで確認）。現地表面下260cm以下で湧水。</p>



第5図 一般国道2号改築工事（岩国大竹道路）計画地（小方地区）土層断面図（1：40）



a 試掘坑全景



b 土層



c 土層部分 (拡大)

2 農業競争力強化基盤整備事業に係る試掘調査

(1) 中筋工区

所在地：東広島市高屋町高屋東

調査目的：農業競争力強化基盤整備事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：広島県西部農林水産事務所（東広島農林事業所）

調査年月日：平成30年12月10日・12月11日・12月13日・12月14日・12月18日

調査対象面積：15,600㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

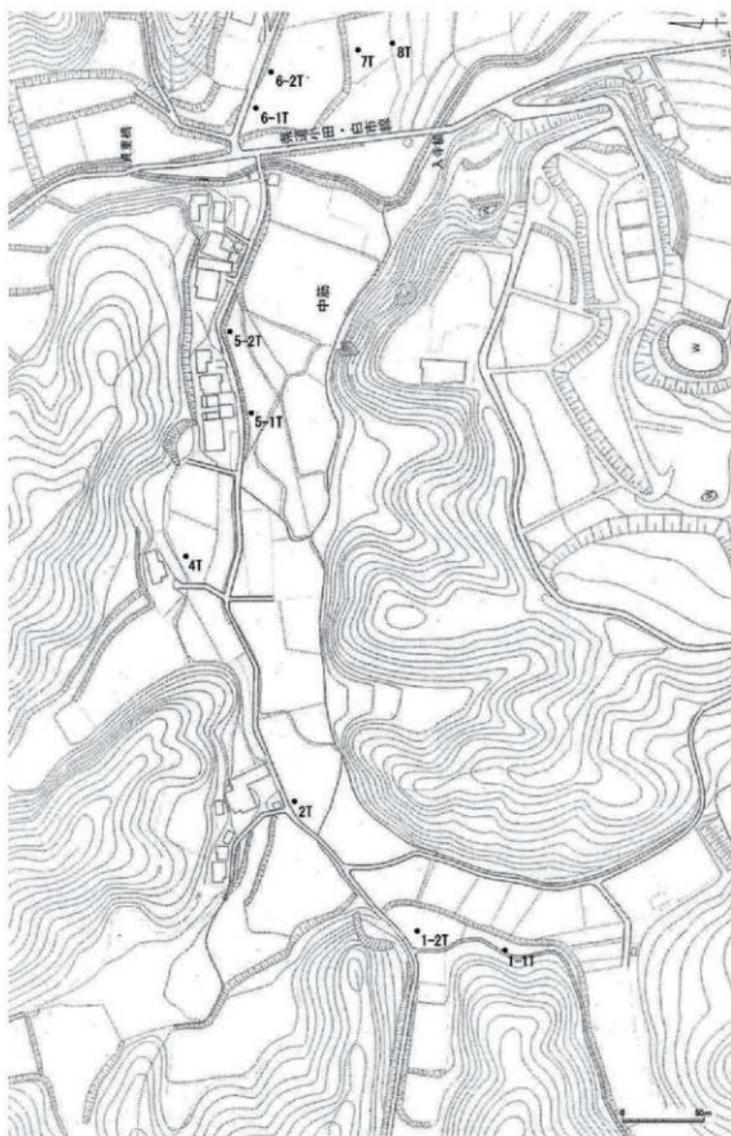
調査概要：

現地踏査により、集落遺跡等の存在する可能性が考えられた、比較的傾斜の緩やかな沖積地を対象として試掘調査を実施した。試掘調査は複数職員が分散し同時並行で実施したことから、記録の混乱を避けるため事前に計画した試掘坑にトレンチ番号を割り振った。試掘開始後の状況に応じて追加したトレンチには枝番号を付し、試掘を省略したトレンチの番号は欠番とした。

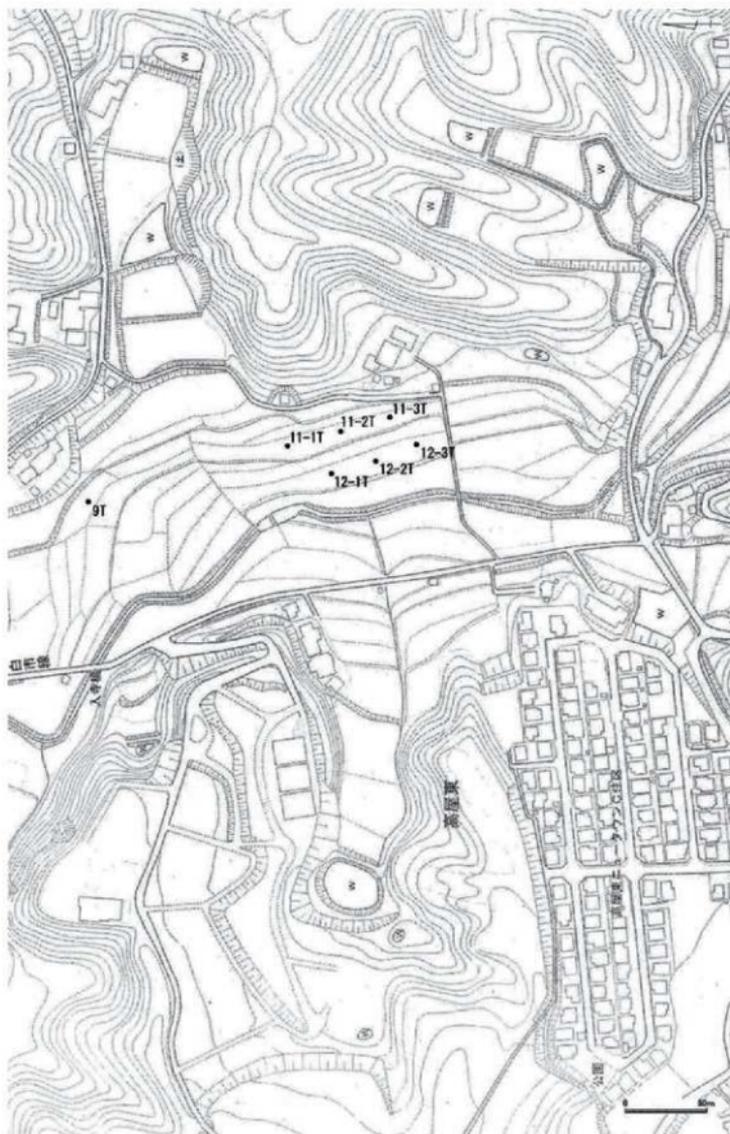


第6図 農業競争力強化基盤整備事業に係る試掘調査地点位置図

(国土地理院1:25,000地形図「白市」図幅を使用)



第7図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試験坑位置図1（1：3,000）



第8図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試験坑位置図2（1：3,000）

基本層序は、Ⅰ層 現水田耕作土・床土、Ⅱ層 水田造成土、Ⅲ層 河川による水成堆積物を主体とする自然堆積層、Ⅳ層 明褐色土を中心とする基盤層（花崗岩風化土壌～岩盤）である。

遺構の可能性のあるものとして認識できたのは6-1 TⅣ層上面を検出面とする小土坑1基のみであるが、伴出する遺物が少ないこと、検出面直上から近世後半以降の造成土であること、その他にも時期や機能を特定する手がかりが得られなかったことから、埋蔵文化財として取扱わないこととした。

また、Ⅲ層はおしなべて水分や植物の枝・茎・根を多く含む水成堆積層で、4 Tで認められたような滞留環境下堆積や2 Tの粒度変化から、堆積時には湿地帯であったと推察される。9 Tなどでは水田造成土のⅡ層中に近世後期と考えられる陶磁器の細片が包含され、Ⅲ層には土師質土器の細片が包含されていたことから、当該地が水田として利用され始めたのは近世後期以降であったと推測される。土師質土器は中世のものがあるが、いずれも細片かつ少量の出土にとどまることから、近世後期以降の水田造成以前の居住や農耕には丘陵上が利用され、現在水田等になっている沖積地は丘陵裾に接する部分まで未利用の湿地帯であったという土地利用形態（景観）が推測される。



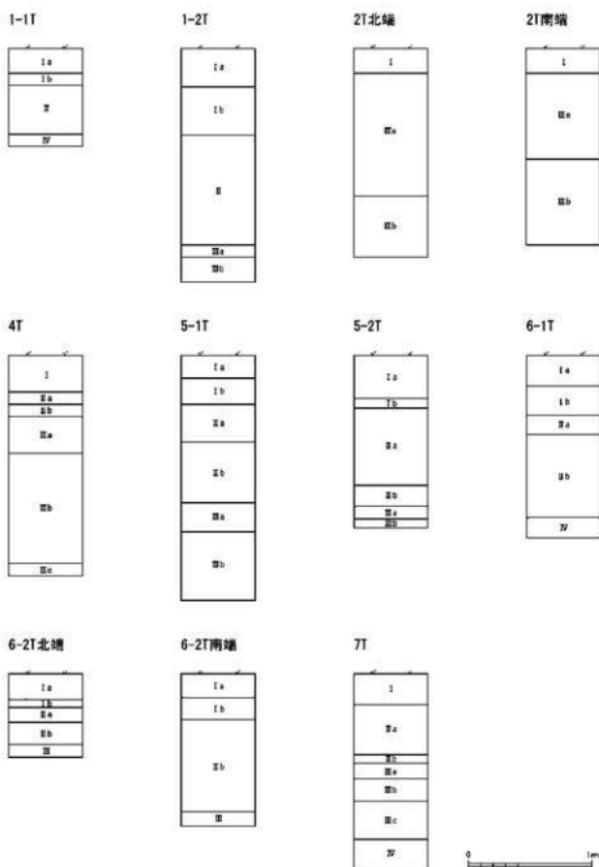
第9図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）試験坑位置図3（1：3,000）

表7 農業競争力強化基盤整備事業計画地(中筋工区)試験坑所見

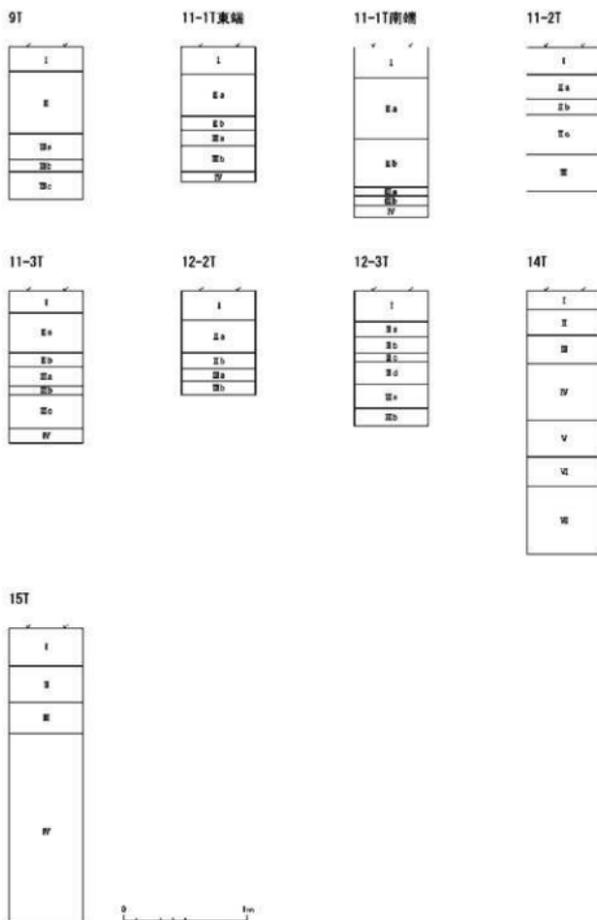
トレンチNo.	規模(長さ×幅×最大深さ, 単位m)	調査所見
1-1 T	3.0×2.1×1.5	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I a層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地表面～現地表下20cm) 耕作土</p> <p>I b層 褐灰色土 (10YR5/1, 現地表下20～30cm) 床土</p> <p>II層 にごり黄褐色土 (10YR4/3, 現地表下30～70cm) 造成土</p> <p>IV層 明黄褐色土 (10YR6/6, 現地表下70～150cmまで確認) 基盤層</p>
1-2 T	7.0×1.1×1.8	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I a層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地表面～現地表下30cm) 耕作土</p> <p>I b層 黄褐色土 (10YR5.5/6, 現地表下30～70cm) 床土</p> <p>II層 灰黄褐色土 (10YR5/2, 現地表下70～160cm) 造成土</p> <p>III a層 褐灰色土 (7.5YR4/1, 現地表下160～170cm) 自然堆積土</p> <p>III b層 黒褐色土 (10YR3/1, 現地表下170～180cmまで確認) 自然堆積土</p>
2 T	15.0×5.0×1.7	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I層 上半は褐色粘土混じりシルト, 下半は暗灰色粘土混じりシルト (現地表面～現地表下20cm) 耕作土。下面に耕作痕(鍬打込み痕)が認められる。</p> <p>III a層 上半部は黄灰色, 下半部は青灰色の砂 (現地表下20～170cm) 砂正級化層理(粒度は最上部は細粒, 下位ほど次第に粗くなる)。ラミナはおおむね水平もしくはわずかに南落ち。下面は波打っており, トレンチ北寄りでは下面近くにIII b層土壌のブロック(水平方向に押しつぶされ断面紡錘形を呈する)が包含される。</p> <p>III b層 暗灰色の砂～シルト (現地表下170cm以下) 上位から下位に向けて次第に粒度が細かくなる逆級化層理。植物の根や茎を包含。トレンチ南寄りでは上部の青灰色粗砂層と下部の黒褐色シルト～粘土層に細分可能。</p>
4 T	15×5.0×1.8	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I層 黒褐色粘土混じりシルト (現地表面～現地表下30cm) 耕作土。下面に耕作痕(鍬打込み痕)が認められる。</p> <p>II a層 青灰色砂混じりシルト (現地表下30～40cm)。II b層との境界部に黒紫色のマンガン沈着が認められる。トレンチ東寄りではさらに分層可能になることから, 造成土と判断した。</p> <p>II b層 黄褐色粘土混じりシルト (現地表下40～50cm)。下面は波打つ。造成土。</p> <p>III a層 オリーブ灰色砂混じりシルト (現地表下50～80cm) 径1cmくらいまでの炭化物を包含。旧表土あるいは耕作土の可能性がある。</p> <p>III b層 灰黄色～黄褐色の砂 (現地表下80～170cm)。正級化層理(砂の粒度は最上部は細粒, 最下部は粗粒)。ラミナはおおむね水平もしくはわずかに西落ち。径10cmくらいまでの褐色粘土のブロックが包含される。</p> <p>III c層 黒褐色シルト～粘土 (現地表下170～180cmまで確認)。木の枝を包含, 枝の方向は一定せず, 滞留環境下にあったと推測できる。湧水が著しく, 上面から約10cm下で発掘を停止した。</p>
5-1 T	4.6×1.5×2.0	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I a層 黒褐色土 (10YR3/1, 現地表面～現地表下20cm) 耕作土</p> <p>I b層 褐灰色土 (10YR5/1, 現地表下20～40cm) 床土</p> <p>II a層 にごり黄褐色土 (10YR4/3, 現地表下40～70cm) 造成土</p>

		<p>II b層 にごみ・黄褐色土 (10YR5/3, 現地地表下70~120cm) 造成土</p> <p>III a層 褐灰色土 (7.5YR5/1, 現地地表下120~145cm) 自然堆積土</p> <p>III b層 褐灰色土 (7.5YR4/1, 現地地表下145~200cmまで確認) 自然堆積土</p>
5-2 T	5.7×2.0×1.7	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I a層 黒褐色土 (10YR3/1, 現地表面~現地地表下35cm) 耕作土</p> <p>I b層 明褐色土 (7.5YR5/6, 現地地表下35~45cm) 床土</p> <p>II a層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地地表下45~105cm) 造成土</p> <p>II b層 灰黄褐色土 (10YR5/2, 現地地表下105~120cm) 造成土</p> <p>III a層 黒色土 (10YR2/1, 現地地表下120~130cm) 自然堆積土</p> <p>III b層 黄褐色土 (10YR5/6, 現地地表下130~170cmまで確認) 自然堆積土</p>
6-1 T	5.8×1.2×1.7	<p>I a層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地地表下20cm) 耕作土 遺構・遺物なし。</p> <p>I b層 黄灰色土 (2.5Y4/1, 現地地表下120~130cm) 床土 遺構・遺物なし。</p> <p>II a層 褐色土 (7.5YR4/6, 現地地表下120~130cm) 造成土 遺構・遺物なし。</p> <p>II b層 褐色土 (10YR4/4, 現地地表下120~130cm) 造成土 遺構・遺物なし。</p> <p>IV 層 明褐色土 (7.5YR5/6, 現地地表下130~170cmまで確認) 基盤層 北東端付近の上面で直径約30cm、深さ約20cmの小土坑1基を確認。遺物なし。</p>
6-2 T	9.3×1.4×0.7	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I a層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地地表下20cm) 耕作土</p> <p>I b層 黄灰色土 (2.5Y4/1, 現地地表下20~25cm) 床土</p> <p>II a層 褐色土 (10YR4/4, 現地地表下25~40cm) 造成土</p> <p>II b層 黒褐色土 (10YR3/1, 現地地表下40~60cm) 造成土</p> <p>III 層 明褐色土 (7.5YR5/8, 現地地表下60~70cmまで確認) 基盤層 やぎ粘質</p>
7 T	9.4×1.5×1.6	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 黒褐色土 (10YR3/1, 現地表面~現地地表下25cm) 耕作土</p> <p>II a層 にごみ・黄褐色土 (10YR4/3, 現地地表下25~65cm) 造成土</p> <p>II b層 黄褐色土 (10YR5/6, 現地地表下65~75cm) 造成土</p> <p>III a層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地地表下75~85cm) 自然堆積土</p> <p>III b層 褐灰色土 (7.5YR4/1, 現地地表下85~105cm) 自然堆積土</p> <p>III c層 黄褐色土 (10YR3/2, 現地地表下105~135cm) 自然堆積土</p> <p>IV 層 暗褐色土 (10YR3/3, 現地地表下135~160cmまで確認) 基盤層</p>
9 T	8.2×1.3×1.25	<p>I 層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地地表下20cm) 耕作土 遺構・遺物なし。</p> <p>II 層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地地表下20~70cm) 遺構なし。造成土 近世後期と考えられる陶磁器の細片、土師質土器の細片を包含。</p> <p>III a層 黒褐色土 (10YR3/2, 黒褐色土 (10YR5/6) を粒状に含む)、現地地表下70~90cm。自然堆積土 遺構・遺物なし。</p> <p>III b層 黒色粘質土 (10YR2/1, 現地地表下90~100cm) 自然堆積土 遺構なし。土師質土器細片を包含。</p> <p>III c層 黒褐色粘質土 (10YR2/3, 現地地表下100~125cmまで確認) 自然堆積土 遺構・遺物なし。</p>
11-1 T	4.3×1.0×1.3	<p>I 層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地地表下25cm) 耕作土 遺構・遺物なし。</p> <p>II a層 明褐色土 (10YR5/6, 現地地表下25~75cm) 造成土 遺構・遺物なし。</p> <p>II b層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地地表下75~115cm) 造成土 遺構・遺物なし。</p> <p>III a層 黒褐色土 (10YR3/2, II a層の土が混ざる, 現地地表下115~125cm) 自然堆積土 遺構・遺物なし。</p>

		<p>III b 層 黒褐色粘質土 (10YR2/3, 現地表下 125~130cm) 自然堆積土 遺構なし。須恵器小片を包含。</p> <p>IV 層 黄褐色粘質土 (10YR7/8, 現地表下 130 cm以下) 基盤層 遺構・遺物なし。</p>
11-2 T	4.2×1.0×1.2	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地表下 20cm) 耕作土</p> <p>II a 層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地表下 20~40cm) 造成土</p> <p>II b 層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地表下 40~50cm) 造成土</p> <p>II c 層 褐色土 (10YR4/6, 現地表下 50~85cm) 造成土</p> <p>III 層 黒褐色粘質土 (10YR2/3, 現地表下 85~120 cmまで確認) 自然堆積土 基盤は確認できず、湧水のため掘削を中止した。試験坑底からピンホールで研突したところ、地表面下約 1.7m でやや硬い層を確認した。</p>
11-3 T	4.4×1.0×1.1	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地表下 15cm) 耕作土</p> <p>II a 層 明褐色土 (10YR5/6, 現地表下 15~45cm) 造成土</p> <p>II b 層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地表下 45~60cm) 造成土</p> <p>III a 層 暗褐色土 (10YR3/3 現地表下 60~75cm,) 自然堆積土</p> <p>III b 層 暗褐色土 (10YR3/4, 現地表下 75~80cm) 自然堆積土</p> <p>III c 層 黒褐色粘質土 (10YR2/3, 現地表下 80~110cm) 自然堆積土</p> <p>IV 層 黄褐色土 (10YR7/8, 現地表下 110 cm以下) 基盤層</p>
12-2 T	4.3×1.1×0.8	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地表下 25cm) 耕作土</p> <p>II a 層 黒褐色土 (10YR3/1, 現地表下 25~55cm) 造成土</p> <p>II b 層 黒褐色砂質土 (10YR3/2, 現地表下 55~70cm) 造成土</p> <p>III a 層 青灰色砂質土 (10BG5/1, 現地表下 70~80cm) 自然堆積土</p> <p>III b 層 青灰色シルト (10BG5/1, 現地表下 80 cm以下) 自然堆積土</p>
12-3 T	4.6×1.0×1.1	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 黒色土 (10YR2/2, 現地表面~現地表下 25cm) 耕作土</p> <p>II a 層 黒色土 (10YR2/1, 現地表下 25~35cm) 造成土</p> <p>II b 層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地表下 35~50cm) 造成土</p> <p>II c 層 褐色土 (10YR4/4, 現地表下 50~60cm) 造成土</p> <p>II d 層 暗褐色土 (10YR3/3, 現地表下 60~75cm) 造成土</p> <p>III a 層 黒色土 (10YR1.7/1, 現地表下 75~95cm) 自然堆積土</p> <p>III b 層 青灰色シルト 10BG5/1, 現地表下 95~110 cmまで確認) 自然堆積土</p>
14T	8.7×1.2×2.2	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 暗褐色土 (10YR3/3, 現地表面~現地表下 15cm) 耕作土</p> <p>II 層 明黄褐色土 (10YR7/6, 現地表下 15~35cm) 造成土</p> <p>III 層 にごり黄褐色土 (10YR4/3, 現地表下 35~60cm) 自然堆積土</p> <p>IV 層 黒褐色土 (10YR3/2, 現地表下 60~105cm) 基盤層</p> <p>V 層 黄褐色土 (10YR5/6, 現地表下 105~135cm)</p> <p>VI 層 灰黄褐色土 (10YR5/2, 現地表下 135~160cm)</p> <p>VII 層 褐灰色砂質土 (10YR6/1, 現地表下 160~220 cmまで確認)</p>
15T	8.7×1.0×2.4	<p>《遺構・遺物なし》</p> <p>I 層 暗褐色土 (10YR3/3, 現地表面~現地表下 30cm) 耕作土</p> <p>II 層 にごり黄褐色土 (10YR5/4, 現地表下 30~60cm) 造成土</p> <p>III 層 褐灰色粘質土 (10YR5/1, 現地表下 60~85cm) 自然堆積土</p> <p>IV 層 褐灰色粘質土 (10YR4/1, 現地表下 85~240 cmまで確認) 基盤層</p>



第 10 圖 農業競爭力強化基盤整備事業計画地（中務工区）土層断面図 1（1：40）



第 11 圖 農業競争力強化基盤整備事業計画地（中筋工区）土層断面図2（1：40）



a 2T (西から)



b 2T南端土層 (東から)



c 2T北端土層 (東から)



a 4T (西から)



b 4T西端土層



a 5-2 T (北から)



b 5-2 T北端 (西から)



c 6-1 T (北東から)



a 6-1T北端土層 (南東から)



b 6-2T (南から)



c 6-2T南端 (南から)



a 7 T (北から)



b 7 T北端土層 (西から)



c 9 T (北から)



a 9T北東端土層（北西から）



b 11-1T（北東から）



c 11-1T東端土層（北から）



a 11-2 T (北東から)



b 11-2 T東端土層 (北西から)



c 11-3 T (北東から)



a 11-3 T土層



b 12-1 T土層 (北から)



c 12-2 T (北東から)



a 12-2 T土層 (北から)



b 12-3 T (北東から)



c 12-3 T土層 (北から)

(2) 北工区

所在地：東広島市高屋町東高屋

調査年月日：令和2年2月12日～14日，2月19日～21日

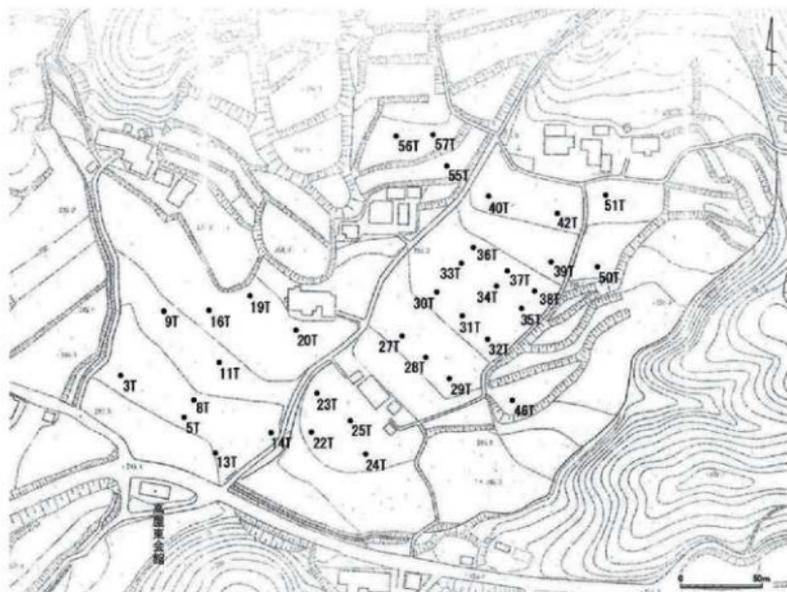
調査対象面積：7,690 m²

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

先に実施した現地踏査により，地形から集落跡等の存在が予想された範囲について，遺構の有無や正確な位置等を確認するため試掘調査を実施した。

基本層序は，Ⅰ層 耕作土（水田造成に伴う盛土），Ⅱ層 灰褐色系の砂・シルト（土師器皿（糸切底）等包含，中世以降の堆積層），Ⅲ層 暗褐色・粘性強いシルト（縄文晩期突帯文～土師器皿（糸切底）等包含，中世以前の堆積層），Ⅳ層 砂・埋没谷の埋土（水成堆積層），Ⅴ層 風化岩盤の順である。



第12図 農業競争力強化基盤整備事業計画地（北工区） 試掘坑位置図（1：3,000）

- ① II層の葉理面傾斜はIII層下面より緩やかであり、II層の堆積により現在の地形に近づいた。
- ② II層は砂質であり、III層より堆積速度がはるかに速い（土壌化する前に堆積による埋没が進行）。
- ③ II層中の葉理面の境界は不明瞭なところが多く、II層は基本的に自然堆積である。
- ④ III層（中世以前の表土）が多い場所で削り取られており、中世以前は現在より起伏が激しい地形だった（中世以前の表層地層は多くが失われている）。
- ⑤ III層下面に耕作痕（鋤の打ち込み痕）が認められるところや、III層が元の耕作土として使われていたところがある。

以上から、試掘地の一帯は中世の時期は居住地・農地等に利用されたことに伴って山林の伐開等が進行し、地表を覆う植物（樹木）が減少することで、表層土が頻繁に流出し、広範囲で谷を埋めた事に加え、その後の水田の整備により更に地形が改変されたと考えられる。

表8 農業競争力強化基盤整備事業計画地試掘坑所見（北工区）

トレンチNo.	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
3 T	5.6×0.9×1.2	<遺構・遺物なし> I 層 耕作土（現地表面～現地表下20cm） II 層 褐色シルト（現地表下20～50cm） III 層 黒褐色シルト（現地表下50～90cm）ところどころ褐色シルトが混ざっている。 IV 層 灰色砂（現地表下90～100cm） V 層 黒褐色シルト（現地表下100～120cmまで確認） 120cm以深で湧水。
5 T	7.0×0.9×0.9	<遺構・遺物なし> I 層 耕作土（現地表面～現地表下20cm） II 層 青灰色シルト（現地表下20～80cm） ところどころに褐色のシルトが混ざっている。 風化岩盤のブロックを含む。 III 層 褐色砂（現地表下80～90cm） 90cm以深で湧水。
8 T	3.2×0.9×0.9	<遺構・遺物なし> I 層 耕作土（現地表面～現地表下20cm） II 層 灰黄褐色の砂（現地表下20～70cm） 風化岩盤のブロックを含む。 III 層 明黄褐色のシルト（現地表下70～90cm） 90cm以深で湧水。
9 T	5.0×0.9×0.55	<遺構・遺物なし> I 層 耕作土（現地表面～現地表下20cm） II 層 灰褐色砂（現地表下20～35cm） 25～35cmの間に粘土状の塊有り。 III 層 橙色シルト（現地表下35～45cm） IV 層 灰色砂（現地表下45～55cm）

11T	2.8×0.9×0.7	<p>I 層 耕作土 (現地表面～現地表下20cm) 遺構・遺物なし。</p> <p>II 層 明褐色シルト (現地表下20～50cm) 遺構なし。土器片が出土。 風化岩盤ブロックを含む。</p> <p>III 層 青灰色シルト (現地表下50～60cm) 遺構・遺物なし。</p> <p>IV 層 橙色粘土 (現地表下60～70cm) 遺構・遺物なし。</p>
13T	6.0×1.0×1.0	<p>I a 層 暗灰～黒灰褐色の耕作土 (現地表面～現地表下20cm) 遺構・遺物なし。</p> <p>I b 層 明褐色シルト (現地表下20～30cm) 水田床土。遺構・遺物なし。</p> <p>II 層 青褐色シルト (現地表下30～80cm) 遺構なし。 II層上面で土師質土器皿 (底部糸切り)</p> <p>III層との境目は若干ぼんやりとしていて不明瞭。</p> <p>III 層 黒褐色シルト (現地表下80～95cm) 遺構・遺物なし。 粘性が大きく、旧表土の可能性あり。下面は波打つ。</p> <p>IV 層 淡褐色砂 (現地表下95～100cm) 遺構・遺物なし。 水成堆積。しまりは弱い。</p>
14T	4.9×1.0×0.9	<p><遺構・遺物なし></p> <p>I 層 耕作土 (現地表面～現地表下20cm)</p> <p>II 層 橙褐色シルト (現地表下20～40cm)</p> <p>III 層 暗褐色シルト (現地表下40～80cm)</p> <p>IV 層 淡褐色粗砂 (現地表下80～90cm)</p> <p>水成堆積。</p>
16T	9.0×1.0×0.2	<p><遺構・遺物なし></p> <p>I 層 耕作土 (現地表面～現地表下20cm)</p> <p>II 層 黒灰色砂混じり粘土 (現地表下20cm以深) 植物の茎・根が混じる。 湧水が激しいため、掘り下りは中止。</p>
19T	9.0×1.0×0.7	<p>I a 層 耕作土 (現地表面～現地表下20cm) 遺構・遺物なし。</p> <p>I b 層 灰褐色砂 (現地表下20～60cm) 遺構なし。 砂をマトリックスとし花崗岩風化ブロックを含む。 炭化物、土器を含む。 水田造成土の可能性あり。</p> <p>V層: 橙褐色砂 (現地表下40～70cm) 遺構・遺物なし。 花崗岩風化岩盤。</p>
20T	0.6×1.0×0.8	<p>I a 層 耕作土 (現地表面～現地表下20cm) 遺構・遺物なし。</p> <p>I b 層 橙褐色シルト (現地表下20～30cm) 水田床土。遺構・遺物なし。</p> <p>II a 層 灰褐色砂 (現地表下30～40cm) 遺構なし。 土師質土器皿 (糸切断) 出土</p> <p>II b 層 橙褐色砂 (現地表下40～50cm) 遺構なし。 下面は傾斜。土師質甕・皿 (糸切断) 出土。</p> <p>III 層 暗褐色砂 (現地表下40～80cm) 遺構なし。 粘性は大きく、見付刻目突帯文土器出土</p> <p>V 層 灰色砂 (現地表下60～80cm)</p>
22T	5.0×1.0×0.4	<p><遺構・遺物なし></p> <p>I a 層 耕作土 (現地表面～現地表下20cm)</p> <p>I b 層 上半が灰褐色、下半が橙褐色の砂混じりシルト (現地表下20～30cm)</p>

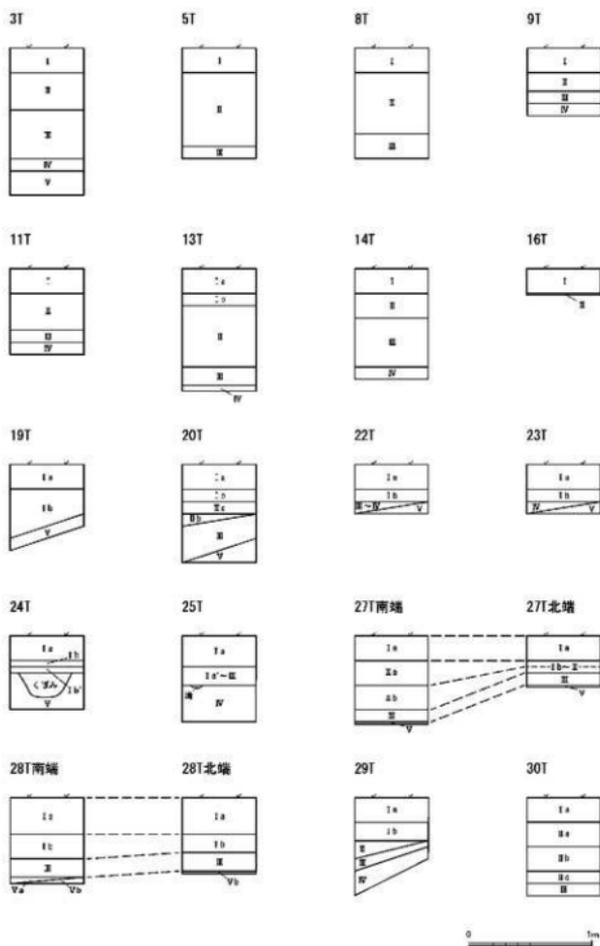
		水田床土。 Ⅲ層 暗褐色砂(旧表土)～Ⅳ層 灰褐色の砂(現地表下30～40cm) Ⅲ層～Ⅳ層は漸移的に変化。 Ⅴ層 淡褐色粗砂(現地表下30～40cm) 風化岩盤
23T	4.8×1.0×0.4	<遺構・遺物なし> Ⅰa層 耕作土(現地表面～現地表下20cm) Ⅰb層 橙褐色砂混じりシルト(現地表下20～30cm) Ⅳ層 灰褐色砂(現地表下30～40cm) 最上部にマンガン沈着。 Ⅴ層 淡褐色・黄褐色の粗砂(現地表下30～40cm) 礫を含む風化岩盤。
24T	10.0×1.8×0.6	<遺物が認められた。> Ⅰa層 耕作土(現地表面～現地表下20cm) Ⅰb層 灰褐色砂(現地表下20～25cm) Ⅰb'層 橙色砂(現地表下25～30cm) 最大深さ約20cmのくぼみ、埋土はⅠbと同じ。立ち上がり傾斜はごく緩やかでプランも不整形。 Ⅴ層 淡褐色砂(現地表下30～60cm) 風化岩盤
25T	10.0×1.0×0.7	<遺物が認められた。> Ⅰa層 耕作土(現地表面～現地表下25cm) Ⅰa'～Ⅲ層 上部5cmは褐色砂混じりシルト、下部は暗褐色シルト。 (現地表下25～40cm) 旧表土と同様の土色・土質。しかし、下面に耕作痕(鍬打ち込み痕)有り。 溝は幅20cm×深さ2～3cm。埋土はⅠa'～Ⅲ層と同じ。 以前の水田区画の可能性あり。 Ⅳ層 上部約10cmは黄色味を帯びる、その下は灰色砂(現地表下50～70cm)
27T	10.0×2.0×0.7	<遺物が認められた。> Ⅰa層 耕作土(現地表面～現地表下20cm) Ⅰb～Ⅱ層 褐色(下部は橙褐色)砂混じりシルト。 南端:現地表下20～60cm、北端:現地表下20～30cm 南にいくに従って、Ⅱa(灰色砂)とⅡb(褐色砂、下部は灰色砂)に分かれる。 Ⅲ層 暗褐色～オリーブ灰色砂混じり粘土。 南端:現地表下60～70cm、北端:現地表下30～40cm 粘性大きい。旧表土。土器片包含。 Ⅴ層 橙褐色砂混じり粘土。 南端:現地表下70cm以深、北端:現地表下40cm以深
28T	9.5×2.0×0.65	<遺物が認められた。> Ⅰa層 耕作土(現地表面から現地表面下30cm) Ⅰb層 橙褐色砂混じりシルト 南端:現地表下30～50cm、北端:現地表下30～45cm 南部にいくに従って、上部(灰褐色)と下部(橙褐色)に分かれる。 Ⅲ層 暗褐色シルト 南端:現地表下50～65cm、北端:現地表下45～60cm 旧表土。土師質土器(皿、糸切皿)出土。 Ⅴa層 褐色粘土と礫の混じった層(現地表面下65cm以深) 崖線の可能性有り

		Vb層 橙褐色砂混じり粘土 南端：現地表下65cm以深、北端：現地表下60cm以深
29T	10.0×2.0×0.5	<p>＜遺物が認められた。＞</p> <p>I a層 耕作土（現地表面～現地表下20cm）</p> <p>I b層 灰褐色砂（現地表下20～30cm） 下面は橙色。</p> <p>II層 灰褐色～橙褐色の砂の互層（現地表下25～50cm） 下半は全体に橙色が強い。 自然堆積・造成・耕作が交互に繰り返された可能性有り。</p> <p>III層 暗褐色シルト（現地表下40～60cm） 粘性が大きく、IV層のブロックを含む。 下層との境は明瞭。 耕作土と思われるが、水平堆積ではないため畑の可能性有り、土器を含む。</p> <p>IV層 暗褐色粘土（現地表下50～80cm） 上部に黒褐色土（旧表土）がまだらに入り込んでいる。</p>
30T	10.0×2.0×0.8	<p>＜遺物が認められた。＞</p> <p>I a層 耕作土（現地表面～現地表下20cm）</p> <p>II a層 灰褐色砂（現地表下20～40cm） 下面は橙褐色。</p> <p>II b層 暗褐色砂（現地表下40～60cm） 下半は褐色味が強い。</p> <p>II c層 黒褐色砂（現地表下60～70cm） 粘性が大きい。</p> <p>III層 暗褐色粘土（現地表下70～80cm） 粘性が大きく、旧表土であり土師質土器皿（糸切皿）出土。 上面に橙褐色の鉄分沈着層（厚さ1～2cm）</p>
31T	10.0×2.0×1.1	<p>＜遺物が認められた。＞</p> <p>I層 耕作土（現地表面～現地表下20cm）</p> <p>II a層 淡褐色砂混じりシルト 南端：現地表下20～50cm、中央：現地表下20～40cm 北端：現地表下20～35cm</p> <p>II b～c層 灰褐色砂混じりシルト（上部は橙褐色） 【II b】南端：現地表下50～80cm、中央：現地表下40～60cm 北端：現地表下35～80cm 【II c】南端：現地表下80～95cm、中央：現地表下60～80cm 中央部以南では、上部（橙褐色を帯びる（II b））と下部（灰褐色（II c））に比較的明瞭に分かれる。）</p> <p>III a層 暗灰褐色シルト 南端：現地表下95～110cm、中央：現地表下80～90cm 旧表土の再堆積層。</p> <p>III b層 暗褐色シル 中央：現地表下80～90cm、北端：現地表下80～85cm 粘性大きい。旧表土。土器片包含。</p> <p>V層 橙色～褐色の砂・粘土 南端：現地表下110cm以深、中央：現地表下90cm以深</p>

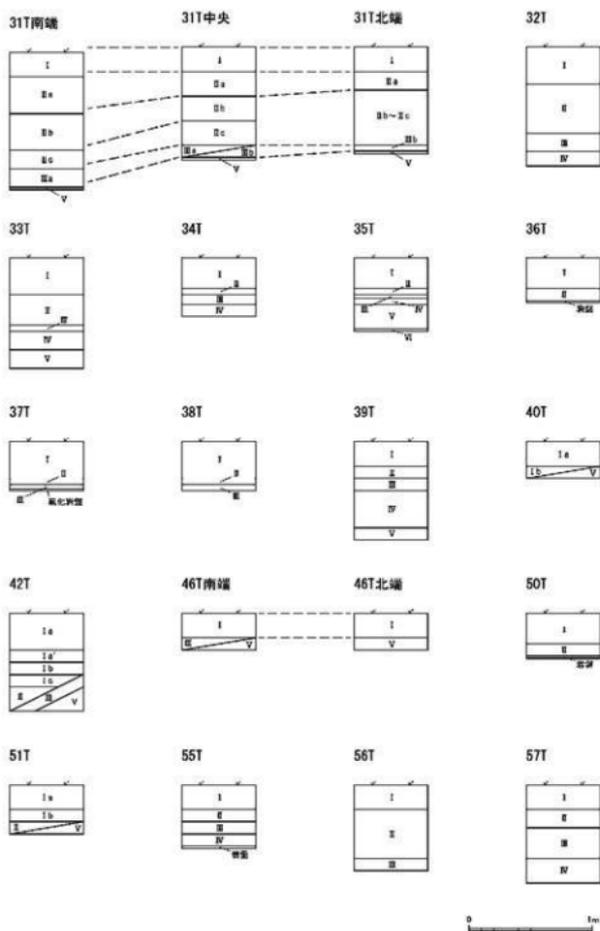
		北端：現地表下85cm以深
32T	4.8×1.7×0.97	<p>〈遺物が認められた。〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下30cm）</p> <p>II 層 にごみ・褐色砂（現地表下30～70cm）</p> <p>III層との間に橙色の層有り。</p> <p>III 層 褐灰色シルト（現地表下70～85cm）</p> <p>IV 層 橙色砂（現地表下85～97cm）</p>
33T	3.1×1.6×0.9	<p>〈遺物が認められた。〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下30cm）</p> <p>II 層 灰色シルト（現地表下30～55cm）</p> <p>III 層 茶色味を帯びた灰色シルト（現地表下55～60cm）</p> <p>IV 層 灰色砂（現地表下60～75cm）</p> <p>V 層 黒褐色粘土（現地表下75～90cm）</p> <p>土器片包含。</p>
34T	5.1×1.3×0.48	<p>〈遺物が認められた。〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下25cm）</p> <p>土器片包含。</p> <p>II 層 橙色シルト（現地表下25～30cm）</p> <p>III 層 灰色シルト（現地表下30～43cm）</p> <p>IV 層 橙色・黒色の砂やシルト（現地表下43～48cm）</p>
35T	4.9×1.3×0.38	<p>〈遺構・遺物なし〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下25cm）</p> <p>II 層 灰白色シルト（現地表下25～30cm）</p> <p>III 層 橙色シルト（現地表下30～33cm）</p> <p>IV 層 灰色砂（現地表下33～38cm）</p> <p>V 層 灰白色砂（現地表下38～58cm）</p> <p>VI 層 橙色シルト（現地表下58～60cm）</p>
36T	6.0×1.5×0.35	<p>〈遺構・遺物なし〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下25cm）</p> <p>II 層 灰色砂（現地表下25～35cm）</p> <p>35cm以深で岩盤を確認。</p>
37T	7.0×1.4×0.38	<p>〈遺物が認められた。〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下30cm）</p> <p>土器片包含。</p> <p>II 層 オリーブ黄色シルト（現地表下30～35cm）</p> <p>III 層 橙色・黒色の砂やシルト（現地表下35～38cm）</p> <p>38cm以深で風化岩盤を確認。</p>
38T	7.4m×1.3m×0.4m	<p>〈遺物が認められた。〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下30cm）</p> <p>土器片を包含。</p> <p>II 層 オリーブ黄色シルト（現地表下30～35cm）</p> <p>III 層 暗灰黄色砂（現地表下35～40cm）</p>
39T	6.0×2.0×0.8	<p>〈遺物が認められた。〉</p> <p>I 層 耕作土（現地表面～現地表下20cm）</p> <p>II 層 にごみ・褐色シルト（現地表下20～30cm）</p>

		<p>Ⅲ 層 橙色シルト (現地表下 30~40cm)</p> <p>Ⅳ 層 褐灰色シルト (現地表下 40~70cm)</p> <p>Ⅴ 層 黒褐色シルト (現地表下 70~80cm)</p> <p>やや黒みを帯びた層準に土器片包含。</p>
40T	10.0×2.0×0.3	<p><遺物が認められた。></p> <p>I a 層 耕作土 (現地表面~現地表下 20cm)</p> <p>I b 層 褐色のシルト (現地表下 20~30cm)</p> <p>V 層上面に突き出した礫を覆うように敷きならした人為堆積の土。</p> <p>V 層 橙褐色の礫混じり砂 (現地表下 20~30cm) 花崗岩風化岩盤。</p>
42T	9.0×1.0×0.8	<p><遺構・遺物なし></p> <p>I a 層 耕作土 (現地表面~現地表下 30cm)</p> <p>I a 層 暗灰褐色砂混じりシルト (現地表下 30~40cm)</p> <p>I b 層 褐色砂 (現地表下 40~50cm)</p> <p>上部は橙色味が強い。</p> <p>I c 層 灰褐色砂 (現地表下 50~60cm) 旧耕作土の可能性有り</p> <p>II 層 褐色砂 (現地表下 60~80cm)</p> <p>上部 5cm は橙色味が強い。</p> <p>III 層 暗褐色シルト (現地表下 50~80cm)</p> <p>V 層 褐色粘土 (現地表下 60~80cm)</p> <p>I c 層と II 層及び III 層と V 層の境は、漸移的で不連続。</p>
46T	10.0×2.0×0.3	<p><遺物が認められた。></p> <p>I 層 耕作土 (現地表面~現地表面下 20cm)</p> <p>下面に耕作痕。</p> <p>III 層 暗褐色砂混じりシルト</p> <p>南端のみ堆積。表土と同様の土質・土色。下面に耕作痕有り。</p> <p>V 層 淡褐色砂 (現地表面下 20~30cm) 風化岩盤</p>
50T	9.2×1.4×0.35	<p><遺構・遺物なし></p> <p>I 層 耕作土 (現地表面~現地表面下 25cm)</p> <p>II 層 褐色シルト (現地表下 25~35cm)</p> <p>35cm 以深で岩盤を確認。</p>
51T	9.0×2.0×0.4	<p><遺物が認められた。></p> <p>I a 層 耕作土 (現地表面~現地表下 20cm)</p> <p>I b 層 橙色シルト (現地表下 20~30cm)</p> <p>II 層 褐色シルト (現地表下 30~40cm)</p> <p>V 層 橙色粘土 (現地表下 30~40cm)</p>
55T	2.0×0.9×0.5	<p><遺物・遺構なし></p> <p>I 層 耕作土 (現地表面~現地表面下 20cm)</p> <p>II 層 灰褐色砂 (現地表下 20~30cm)</p> <p>III 層 黄褐色砂 (現地表下 30~40cm)</p> <p>IV 層 灰褐色粘土 (現地表下 40~50cm)</p> <p>50cm 以深で岩盤を確認。</p>
56T	6.0×1.0×0.7	<p><遺物・遺構なし></p> <p>I 層 耕作土 (現地表面~現地表面下 20cm)</p> <p>II 層 黒褐色粘土 (現地表下 20~60cm)</p> <p>III 層 灰色砂 (現地表下 60~70cm)</p> <p>II 層との間に褐色の砂がところどころあり、岩盤の一部も点々と確認。</p>

57T	2.5×0.9×0.8	<p>〈遺物・遺構なし〉</p> <p>I 層 耕作土 (現地表面～現地表面下20cm)</p> <p>II 層 褐色シルト (現地表面下20～35cm)</p> <p>III 層 黒褐色シルト (現地表面下35～60cm)</p> <p>IV 層 黄褐色砂 (現地表面下60～80cm)</p> <p>80cm 以下で湧水。</p>
-----	-------------	---



第 13 圖 農業競爭力強化基盤整備事業計画地（北工区）土層断面図 1（1：40）



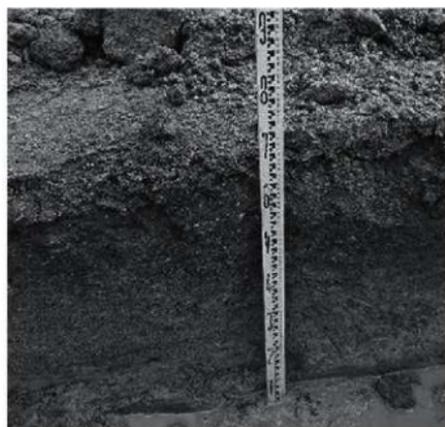
第 14 图 農業競争力強化基金整備事業計画地（北工区）土層断面図 2（1：40）



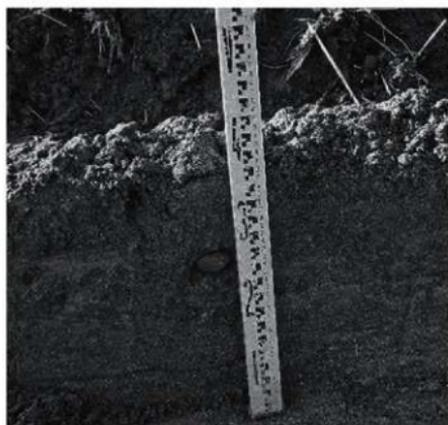
a 3T土層



b 5T土層



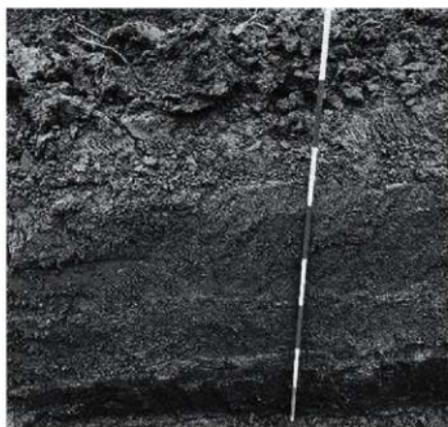
c 8T土層



a 9T土層



b 11T土層



c 13T土層



a 14T



b 16T



c 19T



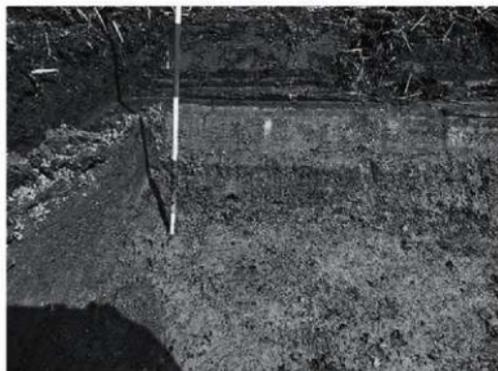
a 20T土層



b 22T



c 23T



a 24T土層



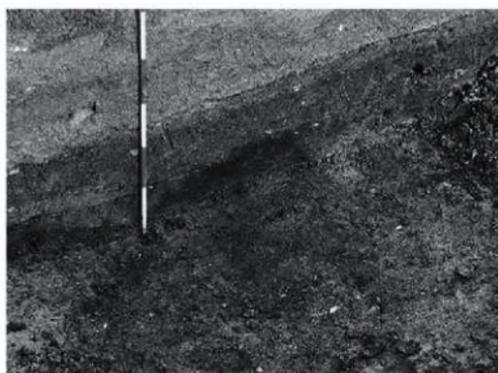
b 25T土層



c 27T



a 28T



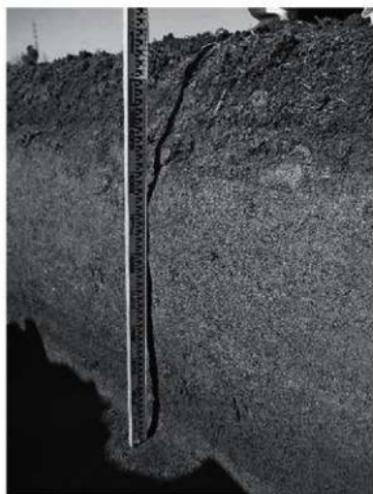
b 29T 土層



c 30T



a 31T 土层



b 32T 土层



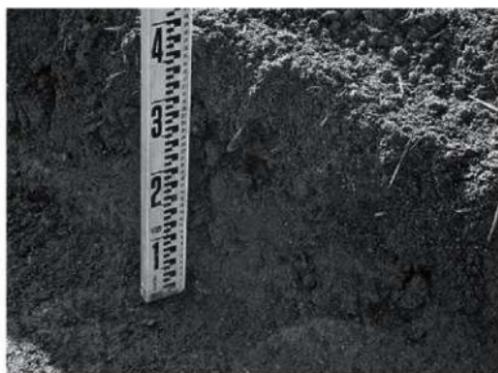
c 33T 土层



a 34T 土層



b 35T 土層



c 36T 土層



a 37T土層



b 38T土層



c 39T土層



a 40T



b 42T土層



c 46T土層



a 50T土層



b 51T



c 55T土層



a 56T 土层



b 57T 土层

3 主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）に係る試掘調査

所在地：大竹市玖波

調査目的：主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：広島県西部建設事務所（廿日市支所）

調査年月日：平成31年3月14日

調査対象面積：208㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

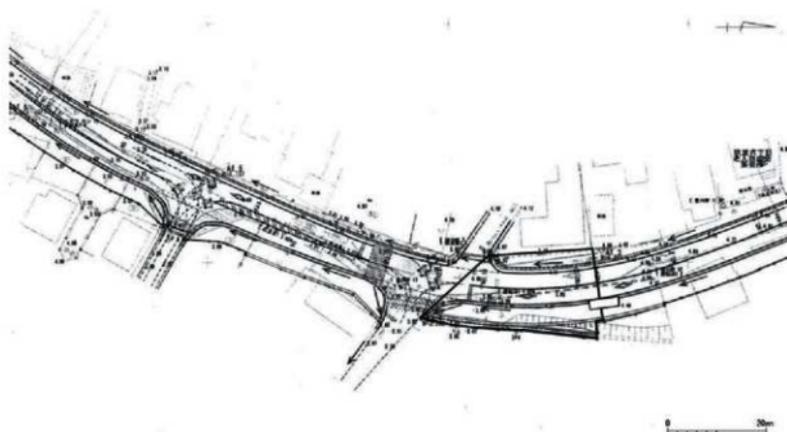
調査概要：

試掘調査地は、恵川に比較的近い南側に向かって緩やかに下る斜面である。試掘当時の状況は、隣接する道路と同じ高さまで盛土を行っていた。試掘坑は1か所設定し、重機を用いて発掘を行った。



第15図 主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）に係る試掘調査地点位置図
（国土地理院 1:25,000 地形図「玖波」区幅を使用。）

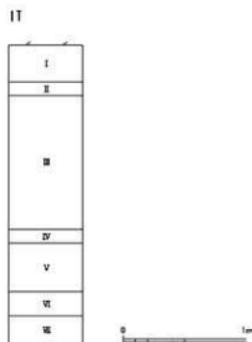
基本層序は上位から、現代の表土と旧耕作土（地表面下0.4mまで、Ⅰ、Ⅱ層）、近現代遺物を包含する造成土（同1.5mまで、Ⅲ層）、旧耕作土（Ⅳ層）、河成堆積物の風化分解土壌と推測される褐色～灰褐色シルト層（Ⅴ層、Ⅵ層）、河成堆積層（Ⅶ層）の順である。遺構の有無確認はⅤ層からⅦ層の上面で行い、遺構は確認できなかったが、Ⅴ層から近世～近代の陶磁器の破片を3点検出した。内1点は内面に貝殻が付着していた。周囲の土壌中に貝殻がほとんど認められなかったことから、元々は貝殻等の生活廃棄物と一緒に投棄されたものが、二次的に原位置から遊離したと推測される。遺構は確認されず、遺物も全て近世以降のものであり、かつ意味ある出土状況を呈していないことから、埋蔵文化財として取扱わないこととした。



第16図 主要地方道大竹湯来線道路改良事業（改波工区）計画地 試験坑位置図（1：1,000）

表9 主要地方道大竹湯来線道路改良事業（改波工区）計画地試験坑所見

規模（長さ×幅×最大深さ，単位m）	調査所見
6×1.9×2.4	Ⅰ層 明黄褐色土（10YR5/6，現地表面～現地表下30cm）表土。遺構・遺物なし。 Ⅱ層 灰黄褐色シルト（10YR4/2，現地表下30～40cm）旧耕作土。遺構・遺物なし Ⅲ層 にぶい黄褐色シルト（10YR5/4，現地表下40～150cm）造成土。コンクリート片、ガラス片、土嚢袋等を包含。遺構・遺物なし。 Ⅳ層 褐灰色シルト（10YR5/1，現地表下150～160cm）旧耕作土。遺構・遺物なし。 Ⅴ層 褐色シルト（10YR4/6，現地表下160～200cm）しまりあり。河成堆積物の風化分解土壌。遺構なし。陶磁器の細片を包含。 Ⅵ層 褐灰色シルト（10YR4/1，現地表下200～220cm）粘土より下位ほど低くなる。河成堆積物の風化分解土壌。遺構・遺物なし。 Ⅶ層 黄褐色シルト（10YR7/8，現地表下220～240cmまで確認）砂質・しまりなし。川砂。河成堆積層。遺構・遺物なし。

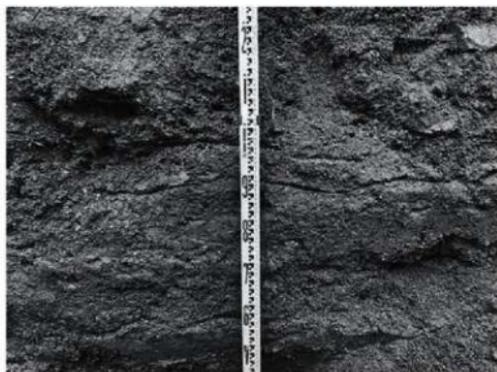


第17圖 主要地方道大竹湯来線道路改良事業（玖波工区）計画地 土層断面図（1：40）

図版25



a 試掘坑全景（北から）



b 土層

4 中条川災害関連緊急砂防工事に係る試掘調査

所在地：竹原市東野町

調査目的：中条川災害関連緊急砂防工事に係る埋蔵文化財の有無確認

開発事業者：広島県西部建設事務所（東広島支所）

調査年月日：平成31年2月13日

調査対象面積：50㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

試掘調査地は、急傾斜の斜面に囲まれた谷底にある、神社の裏手にある平坦面である。周知の埋蔵文化財包蔵地「柏野遺跡」（時代不明の包含地）の範囲内に該当することに加え、神社等に関連する遺構の存在する可能性が考えられたことから試掘調査を行った。



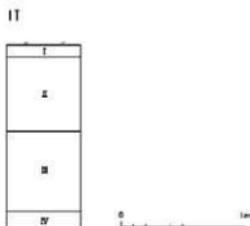
第18図 中条川災害関連緊急砂防工事に係る試掘調査地点位置図

（国土地理院 1:25,000 地形図「竹原」区幅を使用。）

基本層序は上位から、Ⅰ層（現地表面から地表下10cmまで、黒褐色土）、Ⅱ層（大小の礫石を多量に含む明黄褐色土）、Ⅲ層（小さな礫を含むにぶい黄褐色土の層）、Ⅳ層（灰褐色土）である。Ⅱ層とⅢ層との境は南に向かってゆるやかに下るように堆積していたことから、Ⅱ層は平坦面造成時の人為層の可能性があるが痕跡は明瞭ではない。Ⅲ層上面において遺構の有無等を確認したが、遺物や遺構は確認できなかった。

表10 中条川災害関連緊急砂防工事計画地試掘坑所見

規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
6.9×2×1.7	<p>（遺構・遺物なし）</p> <p>Ⅰ層 黒褐色土（10YR2/2、現地表面～現地地表下10cm）腐植土</p> <p>Ⅱ層 明黄褐色土（10YR6/6、現地地表下10～70cm）</p> <p>Ⅲ層 にぶい黄褐色土（10YR5/4、現地地表下70～135cm）</p> <p>Ⅳ層 灰黄褐色土（10YR4/2、現地地表下135～170cmまで確認）</p>

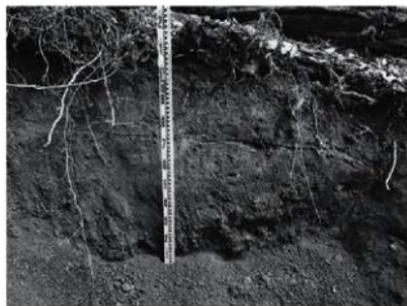


第19図 中条川災害関連緊急砂防工事計画地 土層断面図（1：40）

図版26



a 試掘坑全景（西から）



b 土層

5 福山西環状線道路改築事業に係る試掘調査

所在地：福山市駅家町大橋

調査目的：福山西環状線道路改築事業に係る埋蔵文化財の有無及び適用の確認

開発事業者：広島県東部建設事務所

調査年月日：平成31年3月18日～20日，3月22日

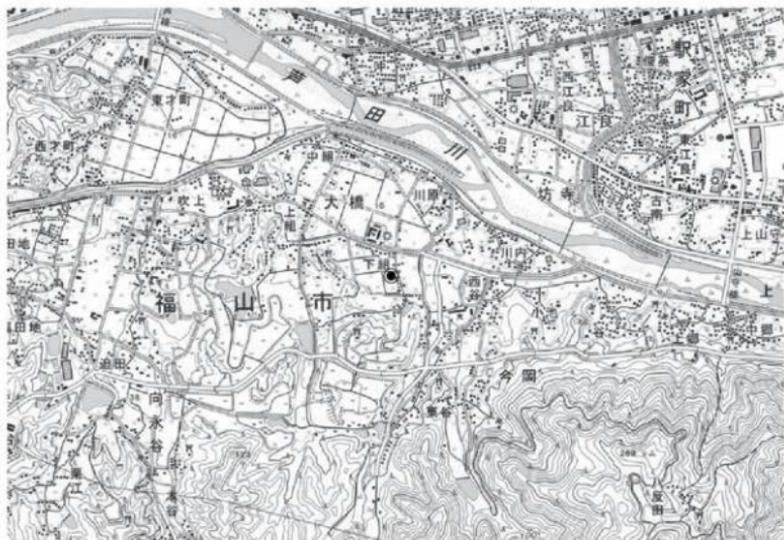
調査対象面積：12,810 m²

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

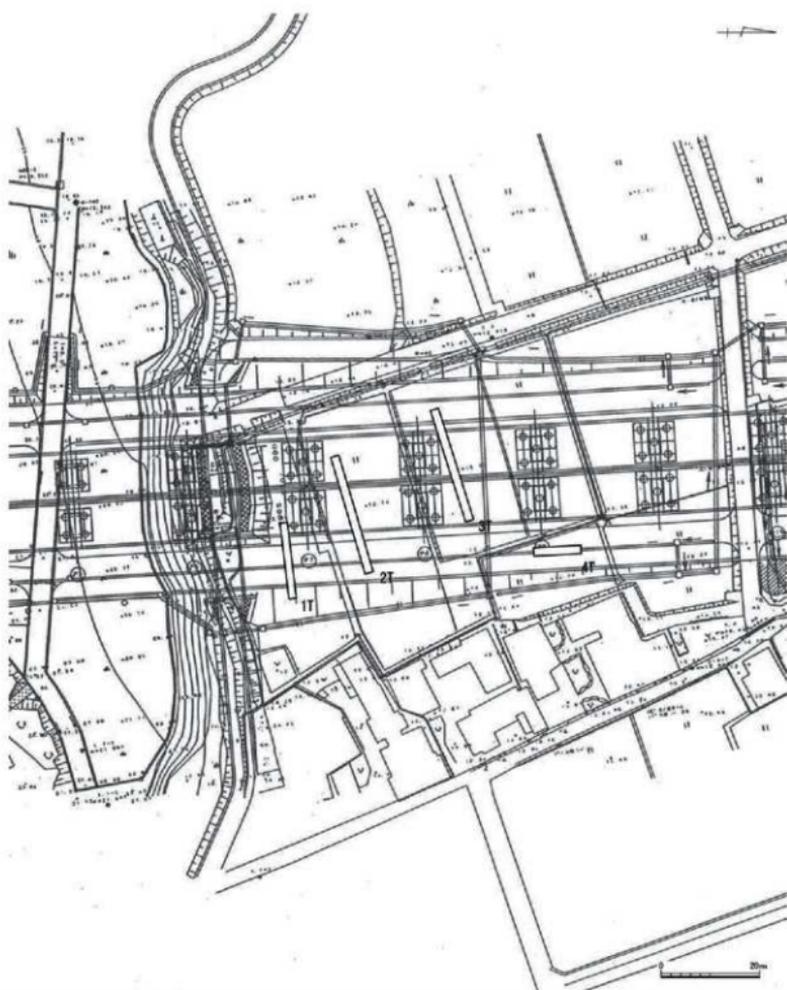
試掘調査地は、芦田川に向かって北側にゆるやかに下る沖積地である。

試掘調査により確認した基本層序は上位から、0層 表土（現代客土）、Ⅰ層 水田耕作土、Ⅱ層 黄灰色シルト、Ⅲ層からⅤ層は概して粘性の高い褐灰色土である。遺構の有無確認はⅡ層以下の各層上面で行い、各トレンチとも遺構を確認することはできなかった。1 T～3 Tにおいて、下端を鋭利な刃物で削って尖らせた直径5 cm程度の木製杭が確認された。1 T及び2 TではⅡ層中、3 TではⅣ層中で確認した。伴出する遺物がなく帰属時期は特定できないが、確認された深度は現地表面から60～80 cm程度の深さで掘っており、水田耕作に伴って打ち込まれたものの可能性が高い。他に出土遺物はなく、埋蔵文化財として保護すべきものはないと判断した。



第20図 福山西環状線道路改築事業に係る試掘調査地点位置図

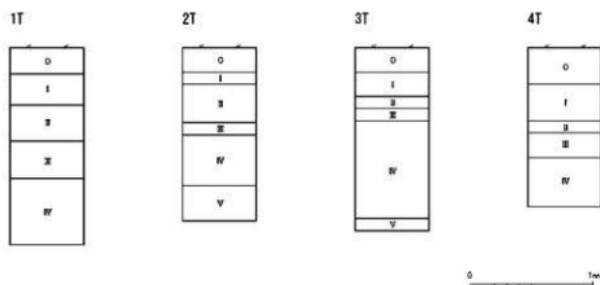
(国土地理院 1:25,000 地形図「新市」区幅を使用。)



第21圖 福山西環狀線道路改善事業計画地 試掘坑位置圖 (1:1,000)

表 11 福山西環状線道路改築事業計画地質調査所見

トレンチNo.	規模(長さ×幅×最大深さ, 単位m)	調査所見
1 T	15.6×1.5×2.1	<p>(遺構・遺物なし)</p> <p>0層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地表面～現地表下20cm) 表土</p> <p>I層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3, 現地表下20～45cm) 耕作土</p> <p>II層 黄灰色シルト (2.5Y5/1, 現地表下45～75cm)</p> <p>III層 褐灰色土 (7.5YR4/1～10YR5/1, 現地表下75～105cm) 東側は砂質で礫を多く包含, 東側はやみや粘質</p> <p>IV層 東側は褐灰色粘質土 (10YR5/1, 現地表下105～210cm) 下から湧水 西側は暗オリーブ色シルト粘質土 (5Y4/3, 現地表下190～210cm)</p>
2 T	24.7×1.7×1.5	<p>(遺構・遺物なし)</p> <p>0層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地表面～現地表下20cm) 表土</p> <p>I層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3, 現地表下20～30cm) 耕作土</p> <p>II層 黄灰色シルト (2.5Y5/1, 現地表下30～60cm)</p> <p>III層 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4, 現地表下60～70cm) 東側はやみや砂質, 西側はやみや粘質</p> <p>IV層 褐灰色シルト (7.5YR4/1, 現地表下70～110cm) 東側は礫を多く包含, 西側は粘質</p> <p>V層 褐灰色シルト (10YR5/1, 現地表下110～150cm) 粘質</p>
3 T	23.7×1.7×1.5	<p>(遺構・遺物なし)</p> <p>0層 褐灰色土 (10YR4/1, 現地表面～20cm) 表土</p> <p>I層 灰黄褐色土 (10YR4/2, 現地表下20～40cm) 耕作土</p> <p>II層 黄灰色土 (2.5Y5/1, 現地表下40～50cm)</p> <p>III層 赤褐色土 (5YR4/8, 現地表下50～60cm) 石多数検出 湧水</p> <p>IV層 褐灰色土 (10YR5/1, 現地表下60～140cm) 粘質</p> <p>V層 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2, 現地表下140～150cm) 粘質 東側のみで確認</p>
4 T	9.6×1.7×1.5	<p>(遺構・遺物なし)</p> <p>0層 褐灰色 (10YR4/1, 現地表面～30cm) 表土</p> <p>I層 にぶい黄褐色土 (10YR4/3, 現地表下30～60cm) 耕作土</p> <p>II層 明黄褐色シルト (10YR6/6, 現地表下60～70cm) しまりなし やみや砂質</p> <p>III層 黄灰色シルト (2.5YR5/1, 現地表下70～90cm)</p> <p>IV層 褐灰色シルト (10YR5/1, 現地表下90～150cm) 粘質 湧水</p>



第22圖 福山西環狀線道路改築事業計画地 土層断面図 (1:40)



a 1T (東から)



b 1T西端土層



c 2T (東から)



a 2 T 東端土層



b 3 T (東から)



c 3 T 西端土層



a 4 T (北から)



b 4 T北端土層

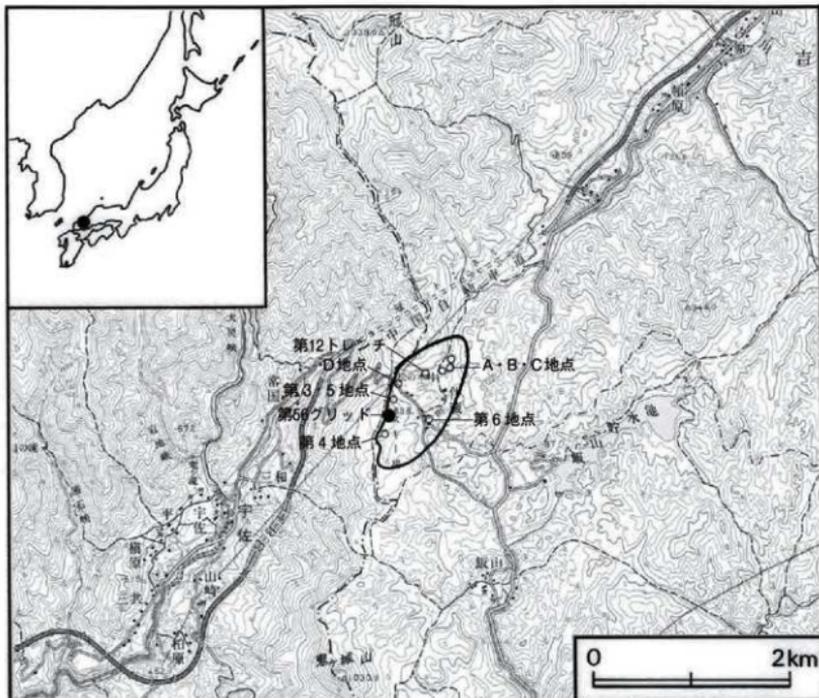
附編 冠遺跡群（廿日市市吉和所在）採集の石器について
 一冠遺跡群発掘調査事業 補遺一

1 はじめに

廿日市市吉和を中心に所在する（一部が同市飯山及び山口県岩国市錦町宇佐に及ぶ）冠遺跡群は、後期旧石器時代から弥生時代にかけて打製石器の素材として用いられた冠山安山岩類の原産地遺跡として著名である。

当該遺跡については、1991年度から2010年度まで広島県教育委員会が実施した重要遺跡発掘調査事業において分布調査（地表面観察）や発掘調査等を実施し、その成果については事業期間中に刊行された概要報告書及び中間・最終報告書によって公開してきた⁽¹⁾。

ただし、それら既刊報告書においては、発掘調査成果を優先的に報告しており、分布調査によって得られた表面採集資料等については十分に報告できなかった資料もある。本稿では、それら未報告資料のうち、実測作業が完了した資料について紹介する。

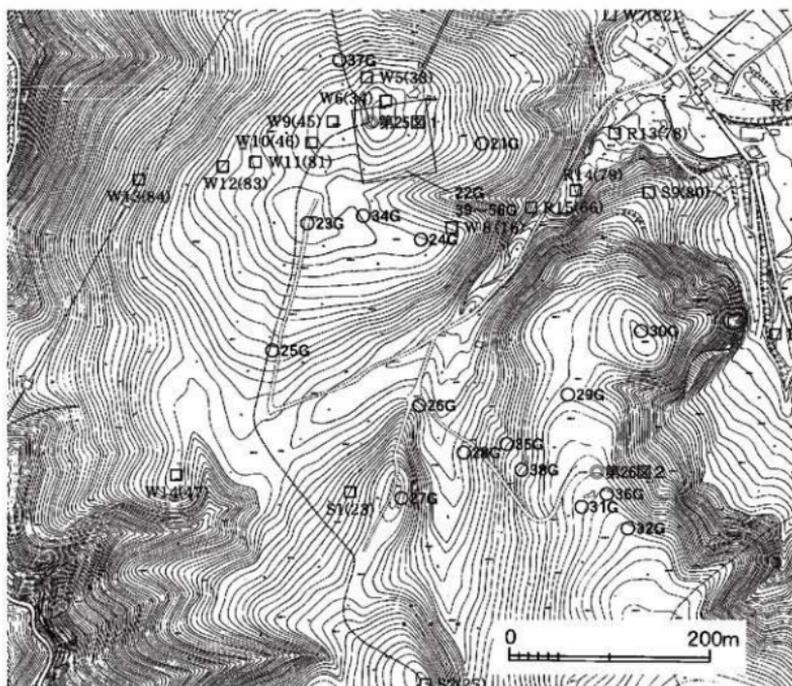


第23図 冠遺跡群位置図（国土地理院1：25,000地形図「安芸冠山」図幅を使用。）

2 位置と環境

(1) 採集地の位置

冠遺跡群は広島県西端に位置し、西中国山地中央部の脊梁面にある小盆地、通称「冠高原」を中心に展開する遺跡群である。石器石材として利用されている冠山安山岩類は「冠高原」西縁と南側に続く丘陵根上の旧石器時代遺物包含層下位に礫層として堆積しているほか、「冠高原」下底部の沢沿いにも、丘陵上から二次的に転落・再堆積したと推測される円礫・亜円礫が分布する。人為物については、これまでに後期旧石器時代ナイフ形石器文化前半期から弥生時代中期までの遺物が確認されているが、弥生時代の遺物はC地点の表土層中から出土した土器1点のみであり、石器製作跡を中心とする遺物分布地（以下「地点」という。）として確認されているのは縄文時代までである。地点の分布は冠遺跡群内の丘陵頂上・斜面・沢沿いの微高地など、ほぼまもなく認められるが、時期ごとに立地傾向が若干異なっており、ナイフ形石器文化期には「冠高原」全体に展開しているのに対して槍先形尖頭器文化期以降は丘陵頂上部の利用が低調で、沢沿いの微高地などに分布が偏る傾向が認められる⁽²⁾。



第24図 遺物採集地位置図

(1 : 5,000, ○ □ △ …既往発掘調査箇所 ◎ …本稿紹介遺物の採集場所)

本稿紹介の資料が収集された場所は、冠遺跡群西縁に当たる、通称「スキー場丘陵」頂上及び冠遺跡群の南端に当たる、通称「ラジコン飛行場丘陵」上である。

「スキー場丘陵」頂上では、槍先形尖頭器未成品1点を表面採集した。採集場所は当該丘陵最高所付近で、広島大学による地点区分の第3・5地点、広島県教育委員会が実施した重要遺跡発掘調査事業のW6調査地の直近に位置する。表層のクロボク土は過去のスキー場造成等により広い範囲で削りされ、下層の黄褐色シルト～粘土と石器・礫が地表面に露出している。

「ラジコン飛行場丘陵」上では、石核1点を断面採集した。採集場所はラジコン飛行場として造成された平坦地南縁の緩傾斜の法面で、広島県教育委員会が実施した重要遺跡発掘調査事業36Gの約20m北である。採集層準は、他の調査地で後期旧石器時代ナイフ形石器文化後半期の遺物を包含するⅢ層である。

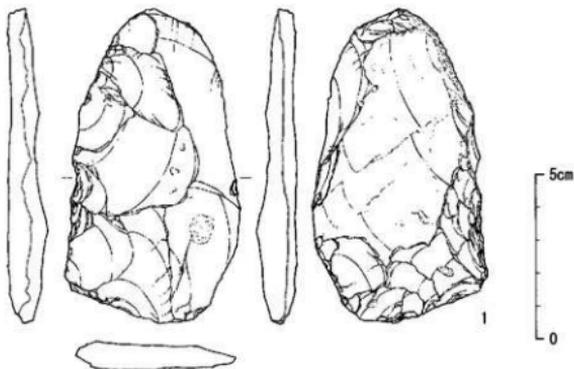
3 遺物の説明

(1) スキー場丘陵頂上採集品

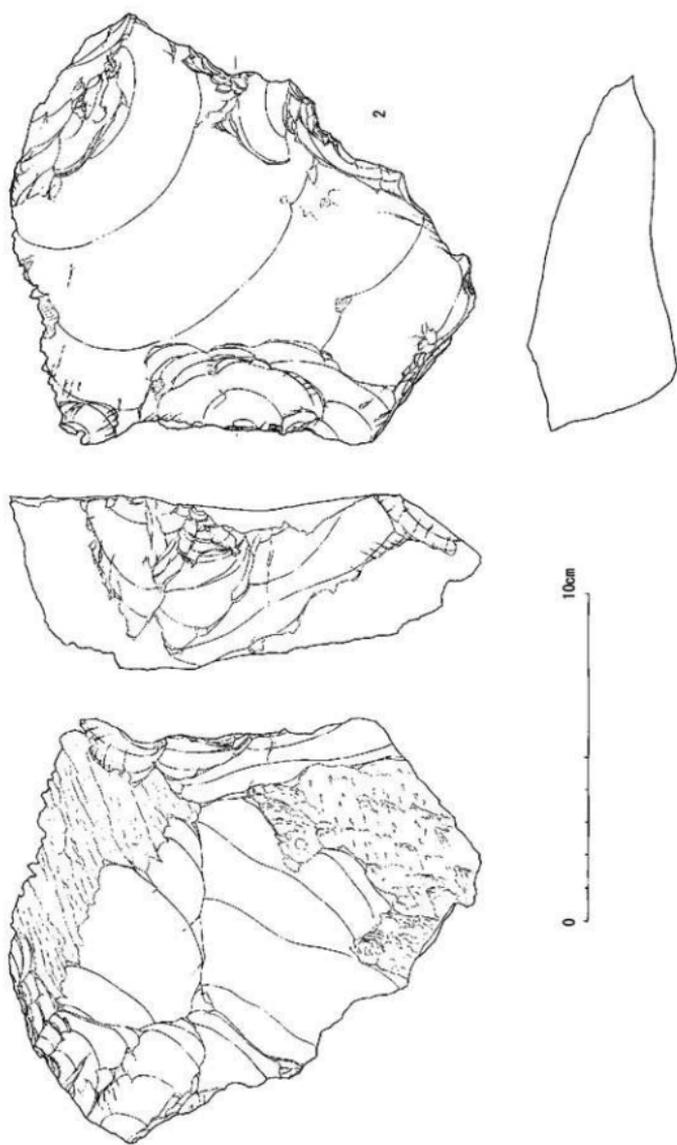
槍先形尖頭器未成品(第25図1) 安山岩第I b類。剥片素材で、背面の大部分と腹面右半分に素材面が残る。腹面側は調整加工がかなり深く入るが、背面側は右側縁下半部から下側縁にかけて剥離が入るのみで、調整加工の比較的初期段階で放棄されたことが分かる。

表12 遺物観察表

標記番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	石材
第25図1	槍先形尖頭器未成品	9.5	5.3	1.2	58.46	安山岩I b
第26図2	石核	14.1	12.9	5.3	760.31	安山岩I b



第25図 冠遺跡群採集遺物実測図1(2:3)



第26图 冠道林群采集遗物尖圆器2(2:3)

(2) ラジコン飛行場採集品

石核(第26図2) 安山岩第I b類、長幅比1:1前後の厚手の剥片を素材とし、素材背面の末端側の辺で数回の剥片剥離を行った後、その面を打面として素材腹面側で剥片剥離を行っている。素材腹面では反対側の側縁から加撃された数枚の剥離面も認められるが、個々の剥離面は小さいため、剥片生産を目的としたものではなくスクレーパーに転用されたか、目的剥片剥離時に偶発的に生じた剥離の可能性がある。素材背面側には自然面が残り、稜面には転磨痕跡が認められない。素材に供された礫はソフトボール大以上の大きさの角礫であったと推測される。

4 評価

スキー場丘陵頂上では、発掘調査による出土品、表面採集品ともにナイフ形石器文化期のものが知られており、槍先形尖頭器文化期以降の遺物についてはほとんど紹介されていなかった。

当該遺物の確認による従来の時期別の地点分布傾向に大幅な見解修正は不要と考えられるが、ごく少数とはいえ当該期の利用痕跡といえるものであり、今後近隣の場所でもより詳細な遺跡内容確認などの必要が生じた際には注意が必要と考えられる。

ラジコン飛行場丘陵上では、過去の分布調査において遺物が表面採集されていたが、いずれも土木工事等によって地形が改変された場所における事例であり、包含層中からの出土が確認されたのは本事例が初である。周囲に石器製作跡が遺存している可能性があり、特に鬱蒼とした山林となっていることから重要遺跡発掘調査事業で詳細な調査を行うことができなかった遺跡群南側に続く尾根上についても遺跡範囲が続く可能性を強く認識しておく必要があるであろう。

註

- (1) 広島県教育委員会『冠遺跡群』I 1992年
広島県教育委員会『冠遺跡群』II 1993年
広島県教育委員会『冠遺跡群』III 1994年
広島県教育委員会『冠遺跡群』IV 1995年
広島県教育委員会・財団法人広島県埋蔵文化財調査センター『冠遺跡群』V 1998年x
広島県教育委員会『冠遺跡群』VI 1999年
広島県教育委員会『冠遺跡群』VII 2000年
広島県教育委員会・財団法人広島県埋蔵文化財調査センター『冠遺跡群』VIII 2001年
- (2) 沖 達明「冠遺跡群について」『旧石器考古学』67 旧石器文化協会 2005年, pp. 29~36

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせいさんじゅうねんど・へいせいさんじゅういち (れいむがん) ねんど ひろしまけんないしせきはつちようさ (しょうさいぶんぶちようさ) ほうこくしょ							
書 名	平成30年度・平成31(令和元)年度広島県内遺跡発掘調査(詳細分布調査)報告書							
編著者名	中山諭希江, 和田 祐, 村田 晋, 沖 憲明							
編集機関	広島県教育委員会事務局管理部文化財課							
所在地	〒730-8514 広島県広島市中区基町9番42号 TEL082-513-5023							
発行年月日	西暦 2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘 期間	遺跡面積 (㎡)	発掘 原因
		市町村	遺跡番号					
冠 遺跡群	広島県廿日市 市吉和	34213	34326- 1	34° 26' 06"	132° 04' 36"			分布調査
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
冠遺跡群	生産遺跡	旧石器				槍先形尖頭器, 石核		
要 約	<p>大規模開発事業等に先立ち, 平成30年度・平成31(令和元)年度に実施した埋蔵文化財の分布調査及び試掘・確認調査の成果を収録した。</p> <p>平成30年度に現地踏査等41件, 試掘・確認調査5事業18地点, 平成31(令和元)年度に現地踏査等44件, 試掘・確認調査2事業2地点を実施した結果, 新たな埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。</p>							

平成30年度・平成31(令和元)年度 広島県内遺跡発掘調査(詳細分布調査)報告書

編集 広島県教育委員会事務局管理部文化財課

広島県広島市中区基町9番42号

T E L 082-513-5023

発行 広島県教育委員会

発行日 令和3年3月31日

印刷 シンセイアート株式会社